

2020年度

教育要項

奈良県立医科大学

医学部 看護学科

目 次

奈良県立医科大学の理念、方針、ポリシー

2020 年度 年間教務日程

2020 年度 看護学科時間割(前期・後期)

1. 看護学科の概要	7
1) 設置の趣旨	
2) 基本的な考え方	
3) 学科の特色	
4) 教育目標	
5) 入学定員、修業年限及び学位	
6) 取得できる資格	
2. 看護学科の教育課程	8
1) 医学部看護学科授業科目履修要領	
(1) 2020 年度以降入学生の教育課程	
(2) 平成 29 年～31 年度入学生の教育課程	
(3) 平成 28 年度入学生の教育課程	
2) 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領	
3) 卒業に必要な単位数	
4) 科目の読み替えについて	
3. 1 年次開講科目の授業内容	24
4. 2 年次開講科目の授業内容	82
5. 3 年次開講科目の授業内容	136
6. 4 年次開講科目の授業内容	170

教員名簿（看護学科専任・教養教育部門専任・兼任・非常勤）

はじめに

大学では、高校までと違い、実にさまざまな授業科目が開講され、その中から何を選択して受講するかは、学生自らが決めることになっています。この「教育要項」は、そのためのガイドラインです。目次に示されているように看護学科の概要、教育課程、履修要領等が掲載されています。特に授業内容の詳細は、担当教員があらかじめ学生に示す教育プラン（目的・目標・内容・授業方法等）で、皆さんにとっては、学習計画や履修科目を選択するうえで、最も基本的な資料となります。科目の目的や内容をしっかり理解するとともに、各科目がどのように関連しているかも考慮したうえで、自らの学習プランを立ててください。

大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するとしています。時間割は、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として講義及び演習は15～30時間で組まれています。残りの時間については、学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間で、一つの授業科目の内容を確実に理解するには、その時間が極めて重要です。

この冊子を見れば、どの時期にどんな内容について学習するかが分かりますので、積極的に活用してください。

理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

教育の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

方針

1. 良き医療人育成プログラムの実践
2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
4. 学習環境と教育環境の充実

奈良県立医科大学医学部看護学科のアドミッションポリシー、 カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

看護学科アドミッションポリシー

1. 自らを律し、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人
2. 幅広い知識と確かな基礎学力を有し、看護学への興味と科学的探究心をもって学習に取り組める人
3. 国際的な視野で考え行動できるとともに、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意と行動力のある人
4. 奈良県立医科大学を愛し、その将来を担う志をもつ人

看護学科カリキュラムポリシー

医学部看護学科であることを最大限に生かし、医学教育と連携して、専門性の高い知識、技術、態度を身につけた学生を育成することを目標として、看護教育カリキュラムを構成する。

1. 専門基礎分野における「人間の理解」と「社会の理解」において人間の尊厳と生命の尊重を理解し、高い倫理観を養う教養科目を配置する。
2. 専門基礎分野における「社会の理解」と「生活・環境の理解」、「健康の理解」において対象者の健康と疾病、障害、環境に関する専門知識および観察力を養う科目を配置する。
3. 専門分野における「看護学の基本」と「看護学の展開」において対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護が展開できる実践能力を養う科目を配置する。
4. 専門分野における「看護学の発展と探究」において看護に関する研究能力を養う科目を配置する。
5. 専門基礎分野における「国際理解」と専門分野における「看護学の発展と探究」において国際社会と地域社会で活躍できる能力を養う科目を配置する。

看護学科ディプロマポリシー

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観に基づいた全人的ケアを提供できる基礎能力を身につけている。
2. 目的意識を持って、対象者に応じた科学的根拠のある技術の適用と必要性を判断できる基礎能力を身につけている。
3. 対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護を展開する基礎的な実践技術を身につけている。
4. 保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を身につけている。
5. 国際社会および地域社会で活躍できる資質を身につけている。
6. 看護職者としてのアイデンティティを確立し、人間的に成長し続ける姿勢を身につけている。

2020年度 年間教務日程

日 程		学 事
2020年	4月3日 (金)	在学生ガイダンス
	4月6日 (月)	入学式
	4月7日 (火)	新入生ガイダンス
	4月8日 (水)	前期授業開始
	4月29日 (水)	祝日開講日(昭和の日)
	7月22日 (水) ～ 7月30日 (木)	前期試験
	7月31日 (金) ～ 9月17日 (木)	夏季休業 ^[注1]
	8月24日 (月)	大学院入学試験(1次募集) ^[注2]
	9月7日 (月) ～ 9月11日 (金)	医学看護学合同教育科目集中講義(前期)
	9月17日 (木)	解剖慰霊祭
	9月18日 (金)	後期授業開始
	10月9日 (金) ～ 10月11日 (日)	大学祭
	11月22日 (日)	看護学科推薦入試 ^[注2]
	11月23日 (月)	祝日開講日(勤労感謝の日)
	12月1日 (火)	大学院入学試験(2次募集)[予定] ^[注2]
12月26日 (土) ～ 1月3日 (日)	冬季休業	
2021年	1月16日 (土) ～ 1月17日 (日)	大学入学共通テスト ^[注2]
	1月18日 (月) ～ 1月22日 (金)	後期試験(1・2年生)
	2月1日 (月) ～ 2月5日 (金)	医学看護学合同教育科目集中講義(後期)
	2月25日 (火) ～ 2月26日 (水)	一般選抜(前期日程)試験 ^[注2]
	3月3日 (水)	保健師課程選抜試験
	3月12日 (金) ～ 3月13日 (土)	一般選抜(後期日程)試験(医学科のみ) ^[注2]
	3月16日 (火)	卒業式(予定)
	3月17日 (水) ～ 入学式前日	春季休業

[注1] 夏季休業期間中に集中講義、追・再試験及び2・3・4年生臨地実習を行う。
ただし、4年生は保健師課程履修者のみを対象とする。

[注2] 入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止

【後期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1年生	臨床心理学	健康運動学A	健康運動学B	臨床薬理学	病態医学I	病態医学II	日本国憲法	基礎看護学実習I	生化学	看護過程論	臨床英語II	フィジカルアセスメント	社会福祉学AとBと	病態医学II	看護技術学I	臨床英語II	栄養学	臨床英語II	西洋文化論						
①基礎看護学実習Iの外実習は、10月19日(月)・20日(火)、病棟実習は、11月9日(月)・10日(火)・10日(火)に実施する。他の日程は、看護技術学I、看護過程論の時間に振り替えて実施する。②奈良学を2月1日(月)～2月5日(金)で開講																									
2年生	在宅看護学概論	公衆衛生看護学活動論II	英語表現法IIA	英語表現法IIB	公衆衛生看護学活動論I	公衆衛生看護学活動論II	公衆衛生看護学活動論III	公衆衛生看護学活動論I	精神看護学援助論I	成人看護学援助論I	成人看護学援助論II	リハビリテーション看護	母性看護学援助論I	小児看護学援助論I	緩和ケア論	老年看護学援助論I	カウンセリング論	看護倫理学							
3年生	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	看護研究	看護研究	災害看護論	災害看護論	災害看護論	災害看護論	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施	臨床実習(グループ別)に実施							
4年生																									

①保健師課程履修者:実習I(保健所)は9月23日(水)～10月2日(金)のうち2日間、(僻地)は10月中に2日間、(奈良県公衆衛生学会)は11月19日(木)(場所:奈良県医師会館)に終日参加。

※「Advanced Clinical English」については、月曜～金曜5コマ目に開講

※非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※不合格となった科目については、次年度以降の時間の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

←前期の前半または後半に開講される科目

--	--

←複数クラスに分かれて開講される科目

--	--

←選択科目

--	--

←対象学生のみ必修科目

--	--

1限目	8:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

1 看護学科の概要

1) 設置の趣旨

近年、医療の高度化・専門化、急速な人口の高齢化をはじめ、看護をめぐる状況の急速な変化により、質の高い看護の提供が求められるとともに、介護保険サービス、子育て支援など、保健・福祉の分野においても、これまで以上に看護の対するニーズが高まっている。そのため、高度な専門知識・実践能力、豊かな人間性を備え、幅広い視野で問題に対応できる人材の育成が求められる。

本県においては、平成8年度から地域医療の中核機関である奈良県立医科大学に看護短期大学部を併設し、看護師及び助産師の養成を進めてきた。今後も引き続きその責務を果たし、さらに発展させていくには、豊かな人間性を育てる教育の強化を図るとともに、効率的なカリキュラムのもとで、看護学及び助産学の教育に保健学の分野も加えて教育し、専門教育をさらに充実させる必要がある。併せて、地域医療・福祉の向上に寄与するため、看護学の研究体制の充実強化も図る必要がある。

このような状況をふまえ、平成16年4月、奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科（3年制課程）及び専攻科助産学専攻（1年課程）を統合発展させる形で、奈良県立医科大学医学部看護学科を設置した。

2) 基本的な考え方

看護職の業務は、人間関係の信頼と人間愛にもとづき、人道主義の概念が基盤にあってなし得るもので、看護を受ける個人や家族、地域集団の健康に関する諸問題に対し、支援する職務でもある。看護職にある者は、自己の業務範囲である機能と役割を真摯に受けとめ、看護の知識と、熟練した技術を追求し、看護を実践する能力を持ち合わせる必要がある。

そのため、絶え間なく変化する社会のニーズに対応することが出来るように、常に幅広い知識と国際感覚を身につけ、保健・医療・福祉の各領域との連携を密に、地域社会に貢献し得る人材を育成する。

3) 学科の特色

本学は、奈良県中央の大和三山に囲まれた緑豊かな場所に位置し、利便性においても交通網に恵まれたのどかな地にあり、奈良県民の健康管理面の中枢機関として地域社会に貢献してきた。また、古くは、飛鳥時代の聖徳太子や奈良時代の光明皇后が病める人々に慈愛の看護を施されたといわれるなど、当地は看護の発祥の地とも言える。この歴史ある地に、この度設置された医学部看護学科は、高度医療に対応した看護実践能力の継承発展と、豊かな心の涵養を軸とした人間形成の開智に向け、大学全体が関わり、幅広く深い教養と総合的判断力を持った看護の専門職者として、積極的に社会に貢献しうる能力を持つ人材を育成する。

- (1) 卒業生全員が看護師の国家試験受験資格を取得するとともに、希望者は科目の選択により、保健師の国家試験受験資格を取得することができる。
- (2) 県民の高学歴化や生涯教育に対するニーズの高まりに応えるため、社会人入学制度を設け、看護職者の質の維持及び向上を図る目的で、編入学、科目等履修生等の制度を

設定する。

- (3) 本学の教育研究機能の積極的活用を図り、県内における看護職者との教育・研究等の交流を通して、看護に関する生涯教育の拠点としての役割を担う。
- (4) 看護や保健の分野で公開講座を開催し、県民福祉の向上に寄与する。

4) 教育目標

- (1) 看護の対象である人間を全人的に理解し、生命の尊厳と権利を擁護する姿勢を持ち、倫理的判断に基づいた行動ができる能力を育成する。
- (2) 看護の目的および意義を理解し、対象者に応じた技術の適用と必要性の判断を自己決定できる実践能力を育成する。
- (3) 変化する社会のニーズやあらゆる人々に応じた看護の展開方法を修得し、さらに幅広い学問を探究することで、看護学固有の課題を追求し、改革する能力を育成する。
- (4) 大学生活や看護の実践を通して、自己を洞察し、看護職者としてのアイデンティティの形成、人間形成等、自己の成長に努める姿勢を育成する。
- (5) 医療および関連職種との協働の必要性を理解し、ヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を育成する。
- (6) 地域および国際社会における看護職の役割を理解し、地域保健医療および国際協力活動に貢献できる基礎的能力を育成する。

5) 入学定員、修業年限及び学位

	定員	修業年限	学位
入学定員	85人	4年	学士（看護学）

6) 取得できる資格

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（選択により取得可能）

2 看護学科の教育課程

本学の教育目標を達成するために、授業科目を、人間・社会の理解、国際理解、生活・環境の理解、健康の理解、看護学の基本、看護学の展開、看護学の発展と探究の7区分とし、教育課程を構成している。開設する科目、単位数、時間数及び履修年次については、13～18頁の看護学科教育課程のとおりである。

奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日以下、「学則」という。）第8条の規定により、医学部看護学科の授業科目（以下、「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目等)

第2条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表1、別表2及び別表3のとおりとする。

(科目の履修)

第3条 学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。

2 学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。

3 科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。

4 単位を修得した科目は、再び履修することはできない。

5 入学前に他の大学等において修得した単位の認定については「奈良県立医科大学入学前の既修得単位の認定に関する規程」による。

(履修科目の制限等)

第4条 看護学実習科目については、次の要件を満たさなければ、履修することができない

(1) 基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、看護学の基本に含まれる科目のうち、第1年次に開講される科目（看護学概論・看護援助の基本・看護技術学Ⅰ・フィジカルアセスメント・看護過程論・基礎看護学実習Ⅰ）をすべて修得済みあるいは修得見込みであること。また、原則として、第2年次に開講される科目（看護技術学Ⅱ・健康障害と看護・ヘルスアセスメント）を修得済みあるいは修得見込みであること。

(2) 第3年次後期から始まる各看護学実習科目を履修するためには、第3年次前期終了までに開講される必修科目のうち別表1、別表2又は別表3に示す科目をすべて修得していること。

ただし、別表1、別表2又は別表3の目的区分の「人間・社会の理解」「国際理解」「生活・環境の理解」「健康の理解」の必修科目において、5単位以内の未修得科目があっても、各看護学実習科目を履修できるものとする。また、教育課程の変更等でやむを得ない事由が生じた場合は別段の判断を行うことがある。

(3) 統合実習を履修するためには、第3年次後期までに開講されているすべての看護学実習科目を修得しなければならない。

ただし、未修得の看護学実習科目が1科目の場合は、別段の判断を行うことがある。

2 第4年次で開講する保健師課程に関する科目を選択できる学生は20人以内とし、履修方法および選考方法等については、別に定める。ただし、公衆衛生看護学実習を履修するためには、第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師課程科目(公衆衛生看護学実習を除く。)をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

3 その他の科目についても、履修学生数等を定めることがある。

(単位の計算方法)

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

(1) 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(2) 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、15時間をもって1単位とすることができる。

(3) 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(卒業の要件)

第6条 看護学科を卒業するためには、4年（転入学生、再入学生については別に定める期間）以上在学し、必修科目と選択科目を併せて128単位以上を修得しなければならない。

(単位認定試験等の受験資格)

第7条 学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定試験等を受験することはできない。

- (1) 履修する科目の出席時間が、当該科目の授業時間数の3分の2(実習科目にあつては5分の4)以上の者
- (2) 出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認めた者

(成績の評価)

第8条 成績の評価は、試験(定期試験、随時試験)の成績及び出席状況等によって判定する。試験は、筆記、口述、レポート、実技等より行われる。成績の表示は100点を満点とし、次の基準により行う。

ただし、看護学実習科目の単位の認定については、別に実習要綱で定める。

100～80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

2 追試験は、定期試験の受験資格を有する者が、疾病その他のやむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった場合に、願出により行う。

ただし、追試験による評価は、前項により行うが、成績の表示は、試験点数の8割とし、次の基準により行う。

80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

3 前項の規定は、当該定期試験が開始されるまでに教育支援課に連絡した場合に適用する。なお、適用を受け追試験を受けようとする者は、所定の追試験受験申請書に医師の診断書その他理由を証する書類を添えて、診断書による療養期間終了後すみやかに学長に提出しなければならない。

4 再試験は、定期試験を受験し不合格となった者に対して、担当教員が認めた場合に限り、願出により行うことがある。

ただし、再試験による成績の評価は、第1項により行うが、成績の表示は、次の基準により行う。

60点	60点未満
可	不可

5 前項の規定により再試験を受けようとする者は、所定の再試験受験申請書を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第9条 科目の単位認定は、成績の評価により、優、良及び可を「合格」、不可を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。

2 単位の認定は、授業科目の担当教員から提出された成績資料に基づき、成績判定会議で審議を行う。

3 成績判定会議は、看護学科教授をもって組織する。

4 単位の認定は、看護学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学科教授会議で報告するものとする。

(試験における不正行為)

第10条 試験において不正行為があったときは、当該科目の試験を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(雑則)

第11条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要領は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 3 項の規定は、平成 26 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

附 則

この要領は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 2 項の規定は、平成 27 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

附 則

この要領は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表1 医学部看護学科の教育課程 (令和2年度以降入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次					頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年前後	2年前後	3年前後	4年前後			
人間・社会の理解	人間発達論	2*		30	1	■					25	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学Ⅰ	★	2*	30	1	■					27	
	臨床心理学	★	2*	30	1	■					29	
	教育実践論	★	2*	30	1	■					35	
	奈良学	★	1*	30	1	■					39	
	次世代医療人育成論	★	1*	30	1	■					40	
	カウンセリング論		1*	30	2		■				83	
	社会福祉と医療法規	★	2*	30	1	■					41	
	保健医療福祉行政論Ⅰ		1*	15	3			■			137	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3			□			138	
	哲学	★	2	30	1	□					42	
	医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1	□					44	
	日本国憲法	※	2	30	1	□					46	
	家族社会学		1	15	2		□				85	
国際情勢論		2	30	1	□					48		
異文化論	★	2	30	1	□					-		
国際理解	臨床英語Ⅰ	2*		60	1	■					50	必修 8単位
	臨床英語Ⅱ	2*		60	1	■					52	
	英語表現法Ⅰ	1*		30	2		■				86	
	英語表現法Ⅱ	1*		30	2			■			88	
	アジア文化論	★	1*	30	1	■					54	
	西洋文化論	★	1*	30	1	■					56	
生活・環境の理解	微生物学	2*		30	2		■				90	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)
	疫学		2	30	4				□		171	
	公衆衛生概論	1*		15	3			■			140	
	保健統計学Ⅰ	1*		15	3			■			141	
	保健統計学Ⅱ	●	1	15	3			□			142	
	生物学		1	15	1	□					58	
	化学		1	15	1	□					59	
情報科学	※	2	30	2		□				92		
健康の理解	健康科学	1*		15	1	■	■				60	必修 23単位
	健康運動学	1*		45	1	■	■				61	
	人体構造学	2*		30	1	■					62	
	人体機能学	2*		30	1	■					63	
	生化学	2*		30	1		■				65	
	栄養学	2*		30	1		■				67	
	病態医学Ⅰ	2*		30	1	■	■				69	
	病態医学Ⅱ	4*		60	1	■	■				71	
	病態医学Ⅲ	4*		60	2		■				94	
	基礎薬理学	1*		15	1	■					73	
	臨床薬理学	2*		30	1	■					74	
看護学の基本	看護学概論	1*		15	1	■					76	必修 13単位
	看護倫理学	1*		15	2			■			97	
	看護援助の基本	1*		15	1	■					77	
	看護技術学Ⅰ	1*		30	1		■				78	
	看護技術学Ⅱ	1*		30	2			■			98	
	フィジカルアセスメント	1*		30	1		■				79	
	健康障害と看護	1*		15	2			■			99	
	ヘルスアセスメント	1*		15	2			■			100	
	看護過程論	2*		30	1		■				80	
	基礎看護学実習Ⅰ	1*		45	1	■	■				81	
	基礎看護学実習Ⅱ	2*		90	2			■	■		101	

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数		
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前			後	
看護学の展開	成熟看護学	成人看護学概論	2 *		30	2		■						102	必修 42 単位	
		成人看護学援助論 I	1 *		30	2			■					104		
		成人看護学援助論 II	1 *		30	2				■				106		
		成人看護学援助論 III	1 *		30	3					■			143		
		成人看護学援助論 IV	1 *		30	3						■		145		
		成人看護学実習 I	3		135	3							■	147		
		成人看護学実習 II	3		135	3							■	148		
	老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2		■						108		
		老年看護学援助論 I	1 *		30	2			■					110		
		老年看護学援助論 II	1 *		30	3				■				149		
		老年看護学実習	4		180	3						■		151		
	育成看護学	小児看護学概論	2 *		30	2		■						112		
		小児看護学援助論 I	1 *		30	2			■					114		
		小児看護学援助論 II	1 *		30	3				■				152		
		小児看護学実習	2		90	3						■		154		
		母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2		■							116
			母性看護学援助論 I	1 *		30	2			■						118
			母性看護学援助論 II	1 *		30	3				■					155
	母性看護学実習		2		90	3						■		157		
	精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2		■						120		
		精神看護学援助論 I	1 *		30	2			■					122		
		精神看護学援助論 II	1 *		30	3				■				158		
		精神看護学実習	2		90	3						■		160		
	広域看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2		■					124		
			公衆衛生看護学活動論 I	2 *		30	2			■				126		
			公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2			□				128		
			公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2			□				130		
			公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□			173
			公衆衛生看護学保健指導論 I		2	60	4						□			176
			公衆衛生看護学保健指導論 II		1	30	4						□			178
			産業保健活動論		1	15	4						□			180
			学校保健活動論		1	15	4						□			181
			公衆衛生看護管理論		2	30	4						□			182
公衆衛生看護学実習 I				2	90	4						□	□	184		
公衆衛生看護学実習 II		3	135	4						□	□	185				
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	2			■				131	必修 22 単位		
		看護管理論	1		15	4						■	186			
		リハビリテーション看護	1 *		15	2			■				133			
		家族看護学	2 *		30	3				■			161			
		在宅看護学概論	2 *		30	2			■				134			
	統合看護学	在宅看護学援助論	2 *		60	3				■			163			
		在宅看護学実習	2		90	3					■		165			
		看護研究特論	1		30	4						■	187			
		看護研究	2		60	4						■	188			
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3				■			166			
		統合実習	2		90	4						■	189			
		災害看護論	1		15	4						■	190			
		チーム医療論	1		30	4						■	191			
		医療安全	1 *		15	3				■			168			
		国際看護論 I	1		30	4						■	193			
国際看護論 II		1	30	4						□	□	195				
合計		126	38		開講時期を■または□で表示。(■は必修、□は選択)								128単位以上 必修 126単位 選択 2単位			

卒業に必要な単位数 128 単位 (認定単位を含む)

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す (22単位)。
 なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ (授業科目の名称欄の●印、計6単位) を修得しておかなければならない。
 したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表2 医学部看護学科の教育課程 (平成29年～31年度入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
人間・社会の理解	人間発達論	2*		30	1	■								25	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学Ⅰ	★2*		30	1	■								27	
	臨床心理学	★2*		30	1		■							29	
	教育実践論	★2*		30	1	■								35	
	奈良学	★1*		30	1		■							39	
	次世代医療人育成論	★1*		30	1	■								40	
	カウンセリング論	1*		30	2				■					83	
	社会福祉と医療法規	★2*		30	1		■							41	
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1*		15	3					■				137	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3					□				138	
	哲学	★	2	30	1	□								42	
	医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1		□							44	
	日本国憲法	※	2	30	1		□							46	
	家族社会学		1	15	3					□				85	
	国際情勢論		2	30	1	□								48	
異文化論	★	2	30	1	□								-		
国際理解	臨床英語Ⅰ	2*		60	1	■								50	必修 8単位
	臨床英語Ⅱ	2*		60	1		■							52	
	英語表現法Ⅰ	1*		30	2			■						86	
	英語表現法Ⅱ	1*		30	2				■					88	
	アジア文化論	★1*		30	1	■								54	
	西洋文化論	★1*		30	1		■							56	
生活・環境の理解	微生物学	2*		30	2			■						90	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)
	疫学		2	30	4						□			171	
	公衆衛生概論	1*		15	3					■				140	
	保健統計学Ⅰ	1*		15	3					■				141	
	保健統計学Ⅱ	●	1	15	3					□				142	
	生物学		1	15	1	□								58	
	化学		1	15	1	□								59	
情報科学	※	2	30	2			□						92		
健康の理解	健康科学	1*		15	1	■	■							60	必修 23単位
	健康運動学	1*		45	1	■	■							61	
	人体構造学	2*		30	1	■								62	
	人体機能学	2*		30	1	■								63	
	生化学	2*		30	1		■							65	
	栄養学	2*		30	1		■							67	
	病態医学Ⅰ	2*		30	1	■	■							69	
	病態医学Ⅱ	4*		60	1		■							71	
	病態医学Ⅲ	4*		60	2			■						94	
	基礎薬理学	1*		15	1	■								73	
	臨床薬理学	2*		30	1		■							74	
看護学の基本	看護学概論	1*		15	1	■								76	必修 13単位
	看護倫理学	1*		15	2				■					97	
	看護援助の基本	1*		15	1	■								77	
	看護技術学Ⅰ	1*		30	1		■							78	
	看護技術学Ⅱ	1*		30	2			■						98	
	フィジカルアセスメント	1*		30	1		■							79	
	健康障害と看護	1*		15	2			■						99	
	ヘルスアセスメント	1*		15	2			■						100	
	看護過程論	2*		30	1		■							80	
	基礎看護学実習Ⅰ	1*		45	1	■	■							81	
	基礎看護学実習Ⅱ	2*		90	2			■	■					101	

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
看護学の展開	成人看護学	成人看護学概論	2 *		30	2		■						102	必修 42 単位
		成人看護学援助論 I	1 *		30	2			■					104	
		成人看護学援助論 II	1 *		30	2				■				106	
		成人看護学援助論 III	1 *		30	3					■			143	
		成人看護学援助論 IV	1 *		30	3						■		145	
		成人看護学実習 I	3		135	3							■	147	
		成人看護学実習 II	3		135	3							■	148	
	老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2		■						108	
		老年看護学援助論 I	1 *		30	2			■					110	
		老年看護学援助論 II	1 *		30	3				■				149	
		老年看護学実習	4		180	3						■		151	
	育成看護学	小児看護学概論	2 *		30	2		■						112	
		小児看護学援助論 I	1 *		30	2			■					114	
		小児看護学援助論 II	1 *		30	3				■				152	
		小児看護学実習	2		90	3						■		154	
	母性看護学	母性看護学概論	2 *		30	2		■						116	
		母性看護学援助論 I	1 *		30	2			■					118	
		母性看護学援助論 II	1 *		30	3				■				155	
		母性看護学実習	2		90	3						■		157	
	精神看護学	精神看護学概論	2 *		30	2		■						120	
		精神看護学援助論 I	1 *		30	2			■					122	
		精神看護学援助論 II	1 *		30	3				■				158	
		精神看護学実習	2		90	3						■		160	
	広域看護学	公衆衛生看護学概論	2 *		30	2		■						124	
		公衆衛生看護学活動論 I	2 *		30	2			■					126	
		公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2			□					128	
		公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2			□					130	
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□		173	
公衆衛生看護学保健指導論 I			2	60	4						□		176		
公衆衛生看護学保健指導論 II			1	30	4						□		178		
産業保健活動論			1	15	4						□		180		
学校保健活動論			1	15	4						□		181		
公衆衛生看護管理論			2	30	4						□		182		
公衆衛生看護学実習 I			2	90	4						□	□	184		
公衆衛生看護学実習 II		3	135	4						□	□	185			
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	2			■					131	必修 22 単位
		看護管理論	1		15	4						■		186	
		リハビリテーション看護	1 *		15	2			■					133	
		家族看護学	2 *		30	3				■				161	
	統合看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2			■					134	
		在宅看護学援助論	2 *		60	3				■				163	
		在宅看護学実習	2		90	3						■		165	
		看護研究特論	1		30	4						■		187	
		看護研究	2		60	4							■	188	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3				■				166	
		統合実習	2		90	4						■		189	
		災害看護論	1		15	4							■	190	
		チーム医療論	1		30	4							■	191	
		医療安全	1 *		15	3				■				168	
国際看護論 I	1		30	4							■	193			
国際看護論 II		1	30	4							□	□	195		
合計		126	38			開講時期を■または□で表示。(■は必修、□は選択)								128単位以上 必修 126単位 選択 2単位	

卒業に必要な単位数 128 単位 (認定単位を含む)

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す (22単位)。
 なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ (授業科目の名称欄の●印、計6単位) を修得しておかなければならない。
 したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表3 医学部看護学科の教育課程 (平成28年度入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
人間・社会の理解	人間発達論	2*		30	1	■								25	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学Ⅰ	★2*		30	1	■								27	
	臨床心理学	★2*		30	1	■								29	
	教育実践論	★2*		30	1	■								35	
	奈良学	★1*		30	1	■								39	
	次世代医療人育成論	★1*		30	1	■								40	
	カウンセリング論	1*		30	2			■						83	
	社会福祉と医療法規	★2*		30	1	■								41	
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1*		15	3				■					137	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3				□					138	
	哲学	★	2	30	1	□								42	
	医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1	□								44	
	日本国憲法	※	2	30	1	□								46	
	家族社会学		1	15	3				□					85	
国際情勢論		1	30	1	□								48		
国際理解	臨床英語Ⅰ	2*		60	1	■							50	必修 8単位	
	臨床英語Ⅱ	2*		60	1	■							52		
	英語表現法Ⅰ	1*		30	2			■					86		
	英語表現法Ⅱ	1*		30	2			■					88		
	アジア文化論	★1*		30	1	■							54		
	西洋文化論	★1*		30	1	■							56		
生活・環境の理解	微生物学	2*		30	2			■					90	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)	
	疫学		2	30	4					□			171		
	公衆衛生概論	1*		15	3				■				140		
	保健統計学Ⅰ	1*		15	3				■				141		
	保健統計学Ⅱ	●	1	15	3				□				142		
	生物学		1	15	1	□							58		
	化学		1	15	1	□							59		
情報科学	※	2	30	2			□					92			
健康の理解	健康科学	1*		15	1	■	■						60	必修 23単位	
	健康運動学	1*		45	1	■	■						61		
	人体構造学	2*		30	1	■							62		
	人体機能学	2*		30	1	■							63		
	生化学	2*		30	1	■							65		
	栄養学	2*		30	1	■							67		
	病態医学Ⅰ	2*		30	1	■	■						69		
	病態医学Ⅱ	4*		60	1	■							71		
	病態医学Ⅲ	4*		60	2			■					94		
	基礎薬理学	1*		15	1	■							73		
臨床薬理学	2*		30	1	■							74			
看護学の基本	基礎看護学	看護学概論	1*		15	1	■							76	必修 13単位
		看護倫理学	1*		15	2			■					97	
		看護援助の基本	1*		15	1	■							77	
		看護技術学Ⅰ	1*		30	1	■							78	
		看護技術学Ⅱ	1*		30	2			■					98	
		フィジカルアセスメント	1*		30	1	■							79	
		健康障害と看護	1*		15	2			■					99	
		ヘルスアセスメント	1*		15	2			■					100	
		看護過程論	2*		30	1	■							80	
		基礎看護学実習Ⅰ	1*		45	1	■	■						81	
		基礎看護学実習Ⅱ	2*		90	2			■	■				101	

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数		
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前			後	
看護学の展開	成人看護学	成人看護学概論	2*		30	2		■						102	必修 42 単位	
		成人看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■					104		
		成人看護学援助論Ⅱ	1*		30	2				■				106		
		成人看護学援助論Ⅲ	1*		30	3					■			143		
		成人看護学援助論Ⅳ	1*		30	3						■		145		
		成人看護学実習Ⅰ	3		135	3							■	147		
		成人看護学実習Ⅱ	3		135	3							■	148		
	老年看護学	老年看護学概論	2*		30	2		■						108		
		老年看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■					110		
		老年看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■				149		
		老年看護学実習	4		180	3						■		151		
	育成看護学	小児看護学	小児看護学概論	2*		30	2		■					112		
			小児看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■				114		
			小児看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■			152		
			小児看護学実習	2		90	3					■		154		
		母性看護学	母性看護学概論	2*		30	2		■							116
			母性看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■						118
			母性看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■					155
	母性看護学実習	2		90	3					■			157			
	精神看護学	精神看護学概論	2*		30	2		■						120		
		精神看護学援助論Ⅰ	1*		30	2			■					122		
		精神看護学援助論Ⅱ	1*		30	3				■				158		
		精神看護学実習	2		90	3					■			160		
	広域看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2*		30	2		■					124		
			公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2*		30	2			■				126		
			公衆衛生看護学活動論Ⅱ	●	2	30	2			□				128		
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	●	1	15	2			□				130			
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□		173		
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ			2	60	4						□		176			
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ			1	30	4						□		178			
産業保健活動論			1	15	4						□		180			
学校保健活動論			1	15	4						□		181			
公衆衛生看護管理論			2	30	4						□		182			
公衆衛生看護学実習Ⅰ			2	90	4						□・□		184			
公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	135	4						□・□		185				
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1*		15	2			■					131		
		看護管理論	1		15	4						■		186		
		リハビリテーション看護	1*		15	2			■					133		
		家族看護学	2*		30	3				■				161		
	総合看護学	在宅看護学概論	2*		30	2			■					134		
		在宅看護学援助論	2*		60	3				■				163		
		在宅看護学実習	2		90	3					■			165		
		看護研究特論	1		30	4						■		187		
		看護研究	2		60	4						■		188		
		ヘルスプロモーションと健康教育	2*		30	3			■					166		
		統合実習	2		90	4						■		189		
		災害看護論	1		15	4						■		190		
		チーム医療論	1		30	4						■		191		
		医療安全	1*		15	3				■				168		
国際看護論Ⅰ	1		30	4						■		193				
国際看護論Ⅱ		1	30	4						□・□		195				
合計		126	35										128単位以上 必修 126単位 選択 2単位			

卒業に必要な単位数 128 単位（認定単位を含む）

（注）

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（22単位）。なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計6単位）を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・単位数右側の*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要がある選択科目を示す。

保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領

保健師課程アドミッションポリシー

1. 保健師として働きたいという気持ちを強く持っている人
2. 奈良県の保健活動に貢献する意思を有し、へき地の保健活動に強い関心を持っている人
3. 保健師として求められる対人関係能力とコミュニケーション能力を有する人
4. 単独実習及びへき地実習が可能な自律性を持っている人

奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

第4条第2項の選考方法等に関する要領（抜粋）

（趣旨）

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領（平成16年4月1日施行）第4条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち公衆衛生看護学に係る選択科目（以下「保健師科目」という。）の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

（保健師科目の定義）

第2条 保健師科目の名称及び単位数、時間数は別表1のとおりとする。

（履修の制限等）

第3条 第2条に定める保健師科目のうち、第4年次に開講する科目を履修しようとする者は、第3年次後期までに開講される卒業に必要な必修科目、選択科目の単位をすべて修得していなければならない。

- 2 第2条に定める公衆衛生看護学実習5単位を履修するためには、平成28年度以降の入学生は第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師科目（公衆衛生看護学実習を除く。）をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

（履修許可人数）

第4条 保健師科目の履修を許可する人数は20人以内とする。

（選考の時期等）

第5条 第2条の科目履修者の選考は別表2-1、別表2-2及び別表2-3の選考方法により、第3年次後期の看護学臨地実習終了後に行うものとする。

（履修志願手続き）

第6条 第2条の科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに学長に申請するものとする。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 平成 28 年度以降入学生の保健師科目及び単位数

科 目	年次	単 位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健医療福祉行政論Ⅱ *	3	2
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	1
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	22

＊・・・3年次末の選抜試験を受け保健師課程の履修を希望する者は、保健師課程選考前に
＊印がある科目を履修しなければならない。

別表 2-1 平成 28 年度入学生の選考方法

選考方法	内 容
学力評価	以下を学力評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・3年次科目：「公衆衛生概論」「保健統計学Ⅰ・Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ」「ヘルスプロモーションと健康教育」 ・2年次科目：「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
試験	1. 筆記試験（論述式）公衆衛生看護学に関すること。 2. 面接試験 口答試験
評価方法	・対象科目の学力評価を50点、筆記試験を30点、面接試験を20点、合計100点で評価し、成績上位者から選考する。

別表 2-2 平成 29 年度入学生の選考方法

選考方法	内 容
学力評価	以下を学力評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から3年次に履修する実習を除く全ての必修科目 ・保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」
試験	・面接試験（個別） 看護学実習評価を面接試験の参考資料とする。
評価方法	・学力評価を80点、面接試験を20点、合計100点で評価し成績上位者から選考する。

別表 2-3 平成 30 年度以降入学生の選考方法

選考方法	内 容
成績評価	以下を成績評価の対象科目とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から3年次に履修する実習を除く全ての必修科目 ・保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」
実習評価	以下を実習評価の対象科目とする <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から3年次に履修する全ての看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習
面接試験	・面接試験（個別）
評価方法	・成績評価を60点、実習評価を20点、面接試験を20点、合計100点とし、合計得点の上位者から選考する。

卒業に必要な単位数

(平成29年度以降入学生)

区 分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解 (保健師課程)	25 (27)	14 (14)	1 (3)	15 (17)
国際理解	8	8	0	8
生活・環境の理解 (保健師課程)	8 (11)	4 (4)	1 (4)	5 (8)
健康の理解	23	23	0	23
看護学の基本	13	13	0	13
看護学の展開 (保健師課程)	42 (59)	42 (42)	0 (17)	42 (59)
看護学の発展と探究	23	22	0	22
合計 (保健師課程)	142 (164)	126 (126)	2 (24)	128 (150)

() 内の数字は保健師国家試験受験資格取得の場合

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ、公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修16単位のうち、疫学の2単位は「生活・環境の理解」、その他の14単位は「看護学の展開」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ(計6単位)を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。

(平成28年度入学生)

区 分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解 (保健師課程)	22 (24)	14 (14)	1 (3)	15 (17)
国際理解	8	8	0	8
生活・環境の理解 (保健師課程)	8 (11)	4 (4)	1 (4)	5 (8)
健康の理解	23	23	0	23
看護学の基本	13	13	0	13
看護学の展開 (保健師課程)	42 (59)	42 (42)	0 (17)	42 (59)
看護学の発展と探究	23	22	0	22
合計 (保健師課程)	139 (161)	126 (126)	2 (24)	128 (150)

() 内の数字は保健師国家試験受験資格取得の場合

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ、公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修16単位のうち、疫学の2単位は「生活・環境の理解」、その他の14単位は「看護学の展開」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ(計6単位)を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。

◇科目の読み替えについて

平成29年度以降入学生用教育課程の開講科目については、次のとおり読み替えを行う。

平成28年度入学生用開講科目						平成29年度以降入学生用開講科目						備考
科目名	年次	時期	単位	時間数	種類	科目名	年次	時期	単位	時間数	種類	
国際情勢論	1	前期	1	30	選択	国際情勢論	1	前期	2	30	選択	

3. 1年次開講科目の授業内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
飯田 順三			
添付ファイル			

目的	人間をより現実的に理解するために、身体・心理・社会的側面の統合体とし、人間が発達し続ける存在であるという観点から捉えようとする。つまり、身体的・心理的・社会的存在としての人間を発達という観点から全体として理解することを学ぶ。		
目標	1) 人間発達学とは何かを学び、その意義について理解する。 2) 人間の発達に影響を及ぼす因子について学ぶ。 3) 発達理論について学習し、理解する。 4) 人間の発達を6段階に分けて学習し、理解する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 人間発達学とその意義	講義	飯田
	第2回 発達における共通性（スキヤモンの発育曲線） 発達に影響を及ぼす因子	講義	飯田
	第3回 発達理論（歴史的展開） ゲゼル、フロイトの発達理論	講義	飯田
	第4回 エリクソンの発達理論	講義	飯田
	第5回 乳幼児期の身体的発達 （歯、骨、脳、反射、排泄、運動）	講義	飯田
	第6回 乳幼児期の心理・社会的側面の発達 1 （マラーの発達理論、ボウルビイの愛着理論）	講義	飯田
	第7回 乳幼児期の心理・社会的側面の発達 2 （ピアジェの認知発達理論、遊びの発達、言語の発達）	講義	飯田
	第8回 乳幼児の発達の評価、発達に関わる健康上の問題 児童虐待	講義	飯田
	第9回 学童期の身体的発達、心理的発達、子どもの問題行動	講義	飯田
	第10回 思春期の身体的発達、心理社会的発達 発達に関わる健康問題（不登校、拒食症、対人恐怖）	講義	飯田
	第11回 青年期の身体的発達、心理社会的発達	講義	飯田
	第12回 成人期の身体的発達 成人期の心理・社会的発達（レビンソンの発達理論）	講義	飯田
	第13回 成人期のストレス ストレスの病態整理、心身症	講義	飯田
	第14回	講義	飯田

	老年期の身体的発達、老年期の心理、社会的発達		
	第15回 まとめ	講義	飯田
評価方法	提示した課題について文献学習し、レポートする。		
テキスト	「人間発達論ノート」を配布する。参考資料を配布する。		
参考図書	舟島なをみ 「看護のための人間発達学」 医学書院		
学生へのメッセージ等	人間を統合的に理解し、発達の観点から捉えてみると、自分自身のこともよく理解できるようになる。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

目的	医療行為は患者の身体や生命、患者や患者の家族の人生に深く関わる。それだけに医療行為に携わる者には、医学・看護学に関する専門的な知識や技術だけでなく、人間に対する深い認識や高い倫理的意識をもつことが求められる。 本講義では、現代医療が抱える諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。		
目標	医療とは何か、またどうあるべきかを考え、医療者にとって必要な倫理的判断力を身につける。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 倫理学と医療倫理学	講義	池邊
	第2回 人間の尊厳と医療	講義	池邊
	第3回 インフォームド・コンセント（1） —定義—	講義	池邊
	第4回 インフォームド・コンセント（2） —歴史的経緯—	講義	池邊
	第5回 患者の権利	講義	池邊
	第6回 研究倫理	講義	池邊
	第7回 輸血拒否	講義	池邊
	第8回 守秘義務	講義	池邊
	第9回 生殖医療の倫理的諸問題（1） —社会問題としての不妊—	講義	池邊
	第10回 生殖医療の倫理的諸問題（2） —人工授精と体外受精—	講義	池邊
	第11回 生殖医療の倫理的諸問題（3） —代理出産—	講義	池邊
	第12回 出生前診断の倫理的問題	講義	池邊
	第13回 脳死と臓器移植（1） —脳死—	講義	池邊
	第14回 尊厳死と臓器移植（2） —臓器移植—	講義	池邊
	第15回 人生の最終段階における医療・ケア	講義	池邊
評価方法	講義時に課す小レポート、出席状況、定期試験をあわせて総合的に評価する。		
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。		

参考図書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考図書は講義中に随時紹介する。
学生へのメッセージ等	明確な問題意識を持って講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
近池 操			
添付ファイル			

目的	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。 心理的な問題のある人への理解と援助について実践的な知識を習得する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史	講義	近池
	第2回 人の心の理解 認知機能 学習 神経心理	講義	近池
	第3回 人の心の理解 発達心理学 エリクソンとピアジェ	講義	近池
	第4回 人の心の理解 乳幼児心理学 愛着理論	講義	近池
	第5回 臨床心理アセスメント 心理検査法 質問紙	講義	近池
	第6回 臨床心理アセスメント 心理検査 投影法	講義	近池
	第7回 臨床心理学的援助 深層心理学・精神分析学的理解とアプローチ	講義	近池
	第8回 臨床心理学的援助 認知療法やその他の心理療法	講義	近池
	第9回 精神的な問題と身体的な症状について	講義	近池
	第10回 依存症について	講義	近池
	第11回 職場のメンタルヘルス	講義	近池
	第12回 発達障害について 1	講義	近池
	第13回 発達障害について 2	講義	近池
	第14回 精神病への理解	講義	近池
	第15回 臨床心理実践に求められるもの 連携・守秘義務・倫理・スーパービジョン・研究	講義	近池
評価方法	出席状況 授業態度 試験		
テキスト	授業中に配布します。		

参考図書	授業中に紹介します。
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
山本 典子			
添付ファイル			

目的	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。 心理的な問題のある人への理解と援助について実践的な知識を習得する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史と発展	講義	山本
	第2回 人の心の理解 認知機能・学習	講義	山本
	第3回 人の心の理解 発達・パーソナリティ	講義	山本
	第4回 人の心の理解 観察法・面接法	講義	山本
	第5回 人の心の理解 心理検査	講義	山本
	第6回 臨床心理学における症状・問題とは	講義	山本
	第7回 臨床心理学的援助 深層心理学・精神分析学的理解とアプローチ	講義	山本
	第8回 臨床心理学的援助 行動主義心理学・認知心理学的理解とアプローチ	講義	山本
	第9回 臨床心理学的援助 色々な心理療法	講義	山本
	第10回 心理療法の過程 枠組み・効果・危機介入	講義	山本
	第11回 心理療法の過程 実習をまじえて	講義	山本
	第12回 臨床心理学的な問題 発達のなかで	講義	山本
	第13回 臨床心理学的な問題 社会のなかで	講義	山本
	第14回 臨床心理学的な問題 医療のなかで	講義	山本
	第15回 臨床心理実践に求められるもの	講義	山本
評価方法	出席状況 受講態度 提出物 試験		
テキスト	授業中に配布します。		

参考図書	授業中に紹介します。
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
宿谷 仁美			
添付ファイル			

目的	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	対人援助職として、自分自身の精神的な健康の保持、人格陶冶を目指す。心理的な問題を抱えた人の理解と援助について実践的な知識を習得する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史	講義	宿谷
	第2回 人の心の理解 認知機能・学習	講義	宿谷
	第3回 人の心の理解 発達とパーソナリティ	講義	宿谷
	第4回 人の心の理解 アタッチメント	講義	宿谷
	第5回 臨床心理学的アセスメント 心理検査：質問紙法	講義	宿谷
	第6回 臨床心理学的アセスメント 心理検査：投影法	講義	宿谷
	第7回 臨床心理実践に求められるもの 心理的援助の枠組み、構造、倫理	講義	宿谷
	第8回 臨床心理学的援助 深層心理学、自我の機能	講義	宿谷
	第9回 臨床心理学的援助 精神分析的理解とアプローチ	講義	宿谷
	第10回 臨床心理学的援助 認知・行動療法、マインドフルネス	講義	宿谷
	第11回 臨床心理学におけるテーマ 精神的な問題と身体症状、職場のメンタルヘルス	講義	宿谷
	第12回 臨床心理学におけるテーマ 学校のメンタルヘルス、ひきこもり発達障害	講義	宿谷
	第13回 臨床心理学におけるテーマ 虐待、DV、離婚	講義	宿谷
	第14回 臨床心理学におけるテーマ 被災者支援、被害者・加害者支援	講義	宿谷
	第15回 臨床心理学におけるテーマ 精神病、依存症	講義	宿谷
評価方法	出席状況 受講態度 提出物 試験		
テキスト	特になし。資料を授業中に配布します。		

参考図書	授業中に紹介します。
学生へのメッセージ等	人の発達・成長・心のあり方に興味関心を持って、授業に積極的に参加することを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
池上 徹			
添付ファイル			

目的	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	①患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。 ②発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるよう伝えることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
第1回	2020年4月9日（木） オリエンテーション （医療従事職として教育実践論を学ぶ意義）	講義	池上
第2回	2020年4月16日（木） 子ども観の変遷 （『子どもの誕生』）	講義	池上
第3回	2020年4月30日（木） 教育をめぐる時代の変化 （モダン社会からポストモダン社会へ）	講義	池上
第4回	2020年5月7日（木） 現代における教育問題の例 （学校化社会・病院化社会という問題）	講義	池上
第5回	2020年5月7日（木） これからの学校教育の実践例 （茅ヶ崎市立浜之郷小学校の実践）	演習	池上
第6回	2020年5月14日（木） 家族と教育 （最初の社会化集団）	講義	池上
第7回	2020年5月14日（木） 生涯学習社会の先進事例 （「学びの社会」スウェーデン）	講義	池上
第8回	2020年5月21日（木） プレゼンテーションの準備1 （課題の設定 個人でレポート作成）	講義・演習	池上
第9回	2020年5月28日（木） プレゼンテーションの準備2 （発表内容の検討 各班ごとに班内でレポート発表）	講義・演習	池上
第10回	2020年6月4日（木） プレゼンテーションの準備3 （発表資料の作成 班で一つのパワーポイントファイルを作成）	講義・演習	池上
第11回	2020年6月11日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション1	演習	池上
第12回	2020年6月18日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション2	演習	池上
第13回	2020年6月25日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション3	演習	池上
第14回	2020年7月2日（木） 教育と医療についてのプレゼンテーション4	演習	池上
第15回	2020年7月16日（木） 21世紀における教育のありかた （授業中試験）	講義	池上
評価方法	シヤトルペーパー、レポート、プレゼンテーション、試験で評価する。		
テキスト	教科書		

	『教育の理念と思想のフロンティア』伊藤良高・富江英俊編、晃洋書房、2017 また、必要に応じて授業中に資料を配付する。
参考図書	参考書 『子どもと教育と社会』腰越滋編、学文社、2016 『看護のための教育学 「知る」から「分かる」への教育』鈴木正幸編、メヂカルフレンド社、1993 『看護学生と看護職のための教育学概論』山崎裕二著、青山社、2012 『看護現場で使える 教育学の理論と技法』中井俊樹編著、メディカ出版、2014
学生へのメッセージ等	後半はグループによる発表が中心となるため、主体的に取り組んでもらいたい。非常勤講師が担当する授業であるが、発表のために事前にファイルを提出するなど、授業時間以外の学びも重視すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
板橋 孝幸			
添付ファイル			

目的	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	①患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。②発表やレポート課題を通して必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて他人にわかるよう伝えることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 オリエンテーション	講義	板橋
	第2回 教育における理念と目的	講義	板橋
	第3回 教授論①：人に教えるということ	講義	板橋
	第4回 教授論②：教育における目標と評価	講義	板橋
	第5回 教授論③：よりよい患者教育を行うためには	演習	板橋
	第6回 学習論①：大学での学びと職業に就いてからの学びの違い	講義	板橋
	第7回 学習論②：生涯学習の意義と役割	講義	板橋
	第8回 学習論③：学び続ける医療従事者になるためには	演習	板橋
	第9回 教育の方法と技術①：課題の設定と解決の工夫（発表準備1回目含む）	講義・演習	板橋
	第10回 教育の方法と技術②：協同学習の要件と技法（発表準備2回目含む）	講義・演習	板橋
	第11回 教育の方法と技術③：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 1回目	演習	板橋
	第12回 教育の方法と技術④：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 2回目	演習	板橋
	第13回 教育の方法と技術⑤：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ グループによる発表 3回目	演習	板橋
	第14回 教育の方法と技術⑥：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶ	演習	板橋

	グループによる発表 4回目		
	第15回	講義・演習	板橋
	まとめ		
評価方法	シヤトルペーパー、レポート、プレゼンテーション、試験で評価する。		
テキスト	テキストについては、特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配付する。		
参考図書	木村元編『教育学』医学書院、2015年		
学生へのメッセージ等	グループによる話し合いを行うので、主体的に授業に取り組むことを期待する。		

講義科目名称： 奈良学

授業コード： K080060

英文科目名称： Nara study

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
教養教育部長／看護教育部長			
添付ファイル			

目的	奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県内の医療機関を訪問して県の医療状況を知り、奈良の医療に貢献する意思を涵養する。		
目標	(1) 奈良の地域や行政について学び、その特色を理解する。 (2) 県内医療施設の訪問等を通じて、奈良県の医療への関心を深めることができる。 (3) 奈良県の医療の現状と将来について議論し、課題を見つけることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 奈良学の開始にあたって	講義	教養教育部長
	第2回 万葉の文学と奈良の文化	講義	ゲストスピーカー
	第3回 今井町の歴史－文化財と街並み	講義	ゲストスピーカー
	第4回 奈良の文化・歴史・自然学習	現地研修	－
	第5回 病院見学	現地研修	－
	第6回 本学の過去・現在・未来について	講義	学長
	第7回 奈良県の医療について	講義	ゲストスピーカー
	第8回 奈良県の地理・気候・自然災害について	講師	ゲストスピーカー
	第9回 病院見学報告会		
	第10回 奈良県の医療に関するシンポジウム		
評価方法	出席、レポート等で総合的に評価する。		
テキスト	特になし		
参考図書	随時、紹介する。		
学生へのメッセージ等	奈良県の文化や医療等に普段から興味を持ち、主体的に学習してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
看護教育部長／教養教育部長			
添付ファイル			
目的	<p>(知的生産技術) チーム医療を担う医療人として求められる「能動的な情報収集力」や「他者と協力して学び合う力」、「論理的思考力」や「批判的思考力(クリティカル・シンキング)」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。 また、レポート・論文の作成方法やプレゼンテーションなどの技法についての修得を目指す。</p> <p>(コミュニケーション) 益々多様性が増す昨今、他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶことが必要である。自分と他者の違いを理解するための「ソーシャルスタイル理論」や、人間関係を構築する上でのステップなどを学び、それぞれが今後のコミュニケーションレベルアップに必要な課題を自覚し、日常の中で恒常的にトレーニングできる状態を目指す。 また、附属病院の実習を行ううえでの基礎として、患者又は患者家族と関わる中で、重要となる基本的な姿勢、視点を身につける。</p> <p>(人権教育) 別途、周知する。</p>		
目標	<p>(知的生産技術) 授業を通じて、以下の2点を到達目標とする。 ①「批判的に思考するとはどういうことか」を他者に説明することができ、自ら実行することができる。 ②協同学習の考え方を理解し、他者と学び合う際に注意すべき点について、説明することができる。 ③情報リテラシーを理解し、情報を適切に収集及び活用することができる。</p> <p>(コミュニケーション) 1. コミュニケーションの仕組みについて説明できるようになる。 2. 自分と他者の違いを理解し、相手に合わせたコミュニケーションの取り方が実践できる。 3. 苦手なタイプを理解し、その対処法を自分なりに工夫し実践することができる。</p> <p>(人権教育) 別途、周知する。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 知的生産技術〈1〉～〈5〉	演習・講義	ゲストスピーカー
	第2回 コミュニケーション〈1〉～〈3〉	講義	ゲストスピーカー
	第3回 コミュニケーション〈4〉～〈6〉	演習	ゲストスピーカー
	第4回 コミュニケーション〈7〉～〈8〉	演習	附属病院看護部 附属病院医師
	第5回 人権教育〈1〉～〈2〉	講義	ゲストスピーカー
評価方法	別途、周知する		
テキスト	別途、周知する		
参考図書	別途、周知する		
学生へのメッセージ等	チーム医療を担う医療人として必要とされる思考力、コミュニケーション力を養います。医療人として重要な能力となりますので、積極的な授業参加態度を求めます。		

講義科目名称： 社会福祉と医療法規

授業コード： K16008A K16008B

英文科目名称： Social Welfare and Medical Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
谷 直之			
添付ファイル			

目的	別途通知します。		
目標	別途通知します。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	別途通知します。		
評価方法	別途通知します。		
テキスト	別途通知します。		
参考図書	別途通知します。		
学生へのメッセージ等	別途通知します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

目的	<p>哲学的思索は、世界や人間の根本原理を追求する営みである。それゆえ、現実と遊離したところで行われる「机上の空論」という印象を抱く人がいるかもしれない。しかし、哲学が理念として描く事柄は、現実の日常生活から抽出した事柄である。哲学的思索の出発点は今ここに生きる「私」であり、「私を取り巻く現実」である。</p> <p>本講義では、以下に列挙した主題について、西洋の哲学思想を手がかりにしながら考えていくことにする。</p>		
目標	<p>自らの生き方や現代社会のあり方について、明確な問題意識をもって問うていく哲学的思考力を身につける。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 哲学とは何か	講義	池邊
	第2回 愛の諸相（1）	講義	池邊
	第3回 愛の諸相（2）	講義	池邊
	第4回 生の肯定（1）	講義	池邊
	第5回 生の肯定（2）	講義	池邊
	第6回 死生観の諸相	講義	池邊
	第7回 自己と他者	講義	池邊
	第8回 心と身体	講義	池邊
	第9回 自由意志	講義	池邊
	第10回 正義と平等	講義	池邊
	第11回 ケアする存在としての人間（1）	講義	池邊
	第12回 ケアする存在としての人間（2）	講義	池邊
	第13回 技術と人間	講義	池邊
	第14回 自然と人間	講義	池邊
	第15回 動物の権利	講義	池邊
評価方法	出席状況、受講態度、レポートで評価する。		
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。		

参考図書	盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考図書は講義中に随時紹介する。
学生へのメッセージ等	哲学には絶対に正しいといえる答えはありません。大切なのは「自分で考えること」です。 講義で取り上げる主題は受講者数、受講者の要望などに応じて、適宜、変更します。 積極的に問題提起されることを望みます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

目的	<p>生命科学や医療技術の発達に伴って、技術的に可能なことと倫理的に容認されることの間にはどのような折り合いをつけていけばよいのかが問われる場面が多々生じている。われわれは今日、従来の生命観や価値観を問い直すことを余儀なくされている。</p> <p>本講義では「医療に関わる倫理学Ⅰ」に引き続き、現代医療をめぐる倫理的諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p>		
目標	医療現場で直面する諸問題について、明確な問題意識をもって倫理的に考えていく力を身につける。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 生命倫理学と功利主義	講義	池邊
	第2回 医学研究の倫理（１）— 歴史的経緯—	講義	池邊
	第3回 医学研究の倫理（２） —被験者保護—	講義	池邊
	第4回 動物実験の倫理	講義	池邊
	第5回 人工妊娠中絶とパーソン論（１） —パーソン論とは—	講義	池邊
	第6回 人工妊娠中絶とパーソン論（２） —パーソン論の展開—	講義	池邊
	第7回 重症新生児の治療の差し控えと中止	講義	池邊
	第8回 エンハンスメントの倫理的問題	講義	池邊
	第9回 医療におけるナラティブ（１） —E BMとN BM—	講義	池邊
	第10回 医療におけるナラティブ（２） —ナラティブ・メディスン—	講義	池邊
	第11回 痛みと人間（１） —痛み両義性—	講義	池邊
	第12回 痛みと人間（２） —痛みと医療—	講義	池邊
	第13回 死生観と医療倫理	講義	池邊
	第14回 緩和ケア	講義	池邊
	第15回 スピリチュアルケア	講義	池邊
評価方法	講義時に課す小レポート、出席状況、定期試験をあわせて総合的に評価する。		
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。		

参考図書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考図書は講義中に随時紹介する。
学生へのメッセージ等	明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
河野 秀壽命			
添付ファイル			

目的	憲法の講義とは、往々にして難しい専門用語と論理を多用することが一般的である。しかし日本人としてこの変動期に生きるためには、法学的思考・表現方法の習得は必然の前提となる。われわれの学ぶべきは、憲法の原理であり形成過程の歴史である。判例解釈を必要最小限にしていく。		
目標	学生諸兄の学ぶ意欲を高め、人権の主張の意味（権利主張ではなく、義務行使の重要性）を問う。法学的思考の人間力形成にどのように役に立つかを問う。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 はじめに なぜに憲法を学ぶのか	講義	河野
	第2回 第1章 憲法の特徴とその構造	講義	河野
	第3回 第2章 1. 大日本憲法の形成とその原理	講義	河野
	第4回 2. 日本国憲法制定過程	講義	河野
	第5回 第3章 憲法の基本原則 1. 国民主権	講義	河野
	第6回 2. 恒久平和主義	講義	河野
	第7回 3. 民主主義	講義	河野
	第8回 第4章 基本的人権 1. 基本的人権の理論	講義	河野
	第9回 2. 自由権の内容	講義	河野
	第10回 3. 社会権の形成	講義	河野
	第11回 第5章 統治構造 1. 国会の構造とその種類	講義	河野
	第12回 2. 議院内閣制	講義	河野
	第13回 第6章 裁判所 1. 司法権の意味（三権分立論）	講義	河野
	第14回 2. 弁護制度・裁判員制度	講義	河野
	第15回	講義	河野

	まとめ 憲法の意義		
評価方法	定期試験、提出物、受講態度等の総合評価を行う。		
テキスト	担当者からレジュメを配布する。		
参考図書	小林直樹『憲法講義（上・下）』 長谷部恭男『憲法』 『あたらしい憲法のはなし』（童話屋）		
学生へのメッセージ等	諸兄よ、講義に出て教師の声を真剣に聞いてください。学ぶ楽しさ、苦しさの経験こそ学生の特権です。そして法とは人間を「自由」にするためのものであり、「支配」の道具ではないことを学んでください。多くの皆様の参加を望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
古屋 哲			
添付ファイル			

目的	「世界」という言葉から、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。この講義では、おもに先住民や移民と呼ばれる人びとの声と姿をつうじて世界を考えてみます。「身近なもの」ではない世界にふれるために、文章を読んだり、映像番組を観たりします。		
目標	看護師になるみなさんが、多様な過去や立場をもち、さまざまな生活をおくる世界の人びとのことを、知ろう、理解しようとする姿勢を身につけてほしいと思います。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり (1)	講義	古屋
	第2回 コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり (2)	講義	古屋
	第3回 コロンブスがみたもの ―― ひとつの始まり (3)	講義	古屋
	第4回 南米の先住民グアラニーの歴史といま (1)	講義	古屋
	第5回 南米の先住民グアラニーの歴史といま (2)	講義	古屋
	第6回 南米の先住民グアラニーの歴史といま (3)	講義	古屋
	第7回 『慶州は母の呼び声』 ―― 朝鮮生まれの日本人作家の回想 (1)	講義	古屋
	第8回 『慶州は母の呼び声』 ―― 朝鮮生まれの日本人作家の回想 (2)	講義	古屋
	第9回 『慶州は母の呼び声』 ―― 朝鮮生まれの日本人作家の回想 (3)	講義	古屋
	第10回 キプリングの『キム』と帝国主義 (1)	講義	古屋
	第11回 キプリングの『キム』と帝国主義 (2)	講義	古屋
	第12回 キプリングの『キム』と帝国主義 (3)	講義	古屋
	第13回 シリア難民、ラーマのつぶやき (1)	講義	古屋
	第14回 シリア難民、ラーマのつぶやき (2)	講義	古屋
	第15回 まとめ	講義	古屋
評価方法	授業中に短い感想を聞かせて（あるいは書いて）ください。期末には簡単なレポートを提出してもらいます。それらを総合して評価します。率直な感想、意見を期待しています。		
テキスト	とくにありません。		
参考図書	授業中に指示します。		

学生へのメッセージ等

少し変わった海外旅行のつもりで、気軽に受講してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
Bolstad Francesco. Mathieson Paul. Rima Ghashut. Sufian Elfandi. Melissa Hamilton. Claire Murray			
添付ファイル			

目的	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening) の育成を目的とする。さらに、学生達の英語文法及び語彙への理解と知識を身につけることが期待され、英語の英語のプレゼンテーションスキルの向上が見込まれます。		
目標	前期修了までに以下のことを習得する： 1. 一般的な話題に関する考えや意見を、流暢かつ自身を持って口語及び文語英語で表現する（間違いを恐れない） 2. 中級レベルの英語文法と語彙を正しく理解し使用できる 3. 中級レベルの英語文法や語彙を理解したり正しく使ったりする 4. 各トピックにつき、英語で約 4分間のミニプレゼンテーションを準備し発表する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	WEEK 1 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 8 April & Friday, 10 April Orientation + Unit 1: Hometown	講義・演習	Bolstad Mathieson Elfandi Ghashut Hamilton Murray
	WEEK 2 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 15 April & Friday, 17 April Unit 1: Hometown	講義・演習	〃
	WEEK 3 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 22 April & Friday, 24 April Unit 1: Hometown	講義・演習	〃
	WEEK 4 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 29 April & Friday, 1 May Unit 1: Hometown	講義・演習	〃
	WEEK 5 1:00 pm - 2:30 pm, Friday, 8 May Special Lesson	講義・演習	〃
	WEEK 6 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 13 May & Friday, 15 May Unit 2: Music	講義・演習	〃
	WEEK 7 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 20 May & Friday, 22 May Unit 2: Music	講義・演習	〃
	WEEK 8 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 27 May & Friday, 29 May Unit 2: Music	講義・演習	〃
	WEEK 9 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 3 June & Friday, 5 June Unit 3: Books	講義・演習	〃
	WEEK 10 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 10 June & Friday, 12 June Unit 3: Books	講義・演習	〃
	WEEK 11 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 17 June & Friday, 19 June Unit 3: Books	講義・演習	〃
	WEEK 12	講義・演習	〃

	1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 24 June & Friday, 26 June Unit 4: Family		
	WEEK 13 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 1 July & Friday, 3 July Unit 4: Family	講義・演習	〃
	WEEK 14 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 8 July & Friday, 10 July Unit 4: Family + Review	講義・演習	〃
	WEEK 15 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 15 July & Friday, 17 July Final Exam + video	試験	〃
評価方法	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする。(例：3回欠席＝ - 5%、4回欠席＝ - 10%、5回欠席＝ - 15% etc)。 ・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題(授業課題、宿題etc.)が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。 <p>評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題と授業への参加 = 10% ・Speakingの流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。 ・Readingの流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は最後のreadingの流暢小テストで60%正解すること。 ・Writingの流暢さ = 10% ・語彙や文法の小テスト = 20% ・ミニプレゼンテーション = 10% ・最終プレゼンテーション = 10% ・期末試験 = 40% 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. Cullen, B. & Mulvey, S. (2016). Scraps. Perceptia Press. ISBN: 4939130847. 2. Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 4902290235 ISBN-13: 9784902290233. 		
参考図書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	<p>この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、両方の教科書の英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/> Paul先生の オフィス・アワー = 木曜日, 14:00 ~ 16:00</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
Bolstad Francesco. Mathieson Paul. Rima Ghashut. Sufian Elfandi. Melissa Hamilton. Claire Murray			
添付ファイル			

目的	この授業は英語の流暢さと4つの英語運用能力 (reading, writing, speaking, and listening) の育成を目的とする。さらに、学生達の英語文法及び語彙への理解と知識を身につけることが期待され、英語の語彙やプレゼンテーションスキルの向上が見込まれます。		
目標	前期修了までに以下のことを習得する： 1. 一般的な話題に関する考えや意見を、流暢かつ自身を持って口語及び文語英語で表現する（間違いを恐れない） 2. 中級レベルの英語文法と語彙を正しく理解し使用できる 3. 中級レベルの英語文法や語彙を理解したり正しく使ったりする 4. 各トピックにつき、英語で約 4分間のミニプレゼンテーションを準備し発表する 5. 一般的なトピックにつき、英語で約 8分間の最終プレゼンテーションを準備し発表する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	WEEK 1 1:00 pm - 2:30 pm, Friday, 18 September Orientation	講義・演習	Bolstad Mathieson Elfandi Ghashut Hamilton Murray
	WEEK 2 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 23 September & Friday, 25 September Unit 5: Travel	講義・演習	〃
	WEEK 3 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 30 September & Friday, 2 October Unit 5: Travel	講義・演習	〃
	WEEK X 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 7 October Special Lesson	講義・演習	〃
	WEEK 4 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 14 October & Friday, 16 October Unit 5: Travel	講義・演習	〃
	WEEK 5 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 21 October & Friday, 23 October Unit 6: School	講義・演習	〃
	WEEK 6 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 28 October & Friday, 30 October Unit 6: School	講義・演習	〃
	WEEK 7 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 4 November & Friday, 6 November Unit 6: School	講義・演習	〃
	WEEK 8 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 11 November & Friday, 13 November Unit 7: Food	講義・演習	〃
	WEEK 9 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 18 November & Friday, 20 November	講義・演習	〃

	Unit 7: Food		
	WEEK 10 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 25 November & Friday, 27 November Unit 8: Friends	講義・演習	〃
	WEEK 11 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 2 December & Friday, 4 December Unit 8: Friends	講義・演習	〃
	WEEK 12 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 9 December & Friday, 11 December Final presentations	講義・演習	〃
	WEEK 13 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 16 December & Friday, 18 December Final presentations	講義・演習	〃
	WEEK 14 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 23 December & Friday, 25 December Final Presentations + Review	講義・演習	〃
	WEEK 15 1:00 pm - 2:30 pm, Wednesday, 6 January & Friday, 8 January Exam + Video	講義・演習	〃
評価方法	<p>出席、授業課題、宿題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席：すべての授業に出席することが望ましいが、2回まではペナルティなしで欠席が許される。それ以上の欠席は、最終成績から5%のペナルティを課すこととする。(例：3回欠席 = - 5%、4回欠席 = - 10%、5回欠席 = - 15% etc)。 ・授業内への取り組み：出席と授業への参加は最終成績の一部になります。授業中居眠りをしたり、授業内での活動に積極的に参加しない学生にはペナルティが課されます。 ・授業課題と宿題：授業を欠席した場合、その時に自分が逃した課題(授業課題、宿題etc.)が何だったかは、自己責任で確認して下さい。授業を欠席した場合でも、出された宿題をすることが求められます。 ・宿題と授業への参加 = 10% ・speakingの流暢さの最終評価 = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は流暢に5分間英語で会話できること。 ・readingの流暢さ = 合否判定※ ※単位取得の為の合格基準は最後のreadingの流暢小テストで60%正解すること。 ・writingの流暢さ = 10% ・語彙や文法の小テスト = 20% ・ミニプレゼンテーション = 10% ・最終プレゼンテーション = 10% ・期末試験 = 40% 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. Cullen, B. & Mulvey, S. (2016). Scraps. Perceptia Press. ISBN: 4939130847. 2. Murphy, R. (2010). Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10: 4902290235 ISBN-13: 9784902290233. 		
参考図書	英和/和英辞典を授業に持参することを強く勧める。		
学生へのメッセージ等	<p>この授業の大部分は授業への参加に基づいているため、全ての授業に出席し、授業内の活動には積極的に参加することを勧める。また、両方の教科書の英語の語彙や文法が期末試験の範囲に含まれるため、初めから良い学習習慣を維持する必要がある。</p> <p><input type="checkbox"/> Paul先生の オフィス・アワー = 木曜日, 14:00 ~ 16:00</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
浅井 良純、水野 杏紀、富岡 三智			
添付ファイル			

目的	<p>(浅井) 戦後、朝鮮半島では大韓民国(韓国)と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)という二つの国家が対立し、民族が分断された状態にある。また近年、日韓両政府はいわゆる「徴用工」や「慰安婦」などの問題で関係が悪化している。さらに朝鮮半島問題を複雑にしているのは、それを取り巻く米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差しているためである。本講座では朝鮮半島問題を理解するために、その地政学的構造に留意し、歴史とその認識における文化的相違性について考察する。</p> <p>(富岡) インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱えながら、多様な民族・宗教・文化を擁し、「多様性の統一」を国是とする国である。日本と歴史的、政治的、経済的に関わりの深いインドネシアの文化を知ることを通して、多様な価値を認め合い共存を目指す社会について考える。</p> <p>(水野) 中国、台湾をはじめとする中華文化圏の人々の生活に密着した文化について理解する。</p>		
目標	<p>(浅井) 朝鮮半島の諸問題について説明できるようになる。</p> <p>(富岡) (1) 多様な宗教や慣習の存在を知る。 (2) 多様性を生んだ地理的・歴史的背景について理解する。 (3) 多様性を維持するための努力やアイデンティティの表現について考える。</p> <p>(水野) 中華文化圏の歴史、地理、気候、民族、言語などの特性を学び、さらに暦法と習俗、飲食と養生、思想(諸子百家)、さらに芸術文化などの生活に密着した事柄について具体的に考察し、中華文化圏の特性を総合的に正しく理解し、それによって中華文化圏の人々との交流に資するとともに、国際的視野を身につける。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 朝鮮半島の地政学的構造と歴史(1)	講義	浅井
	第2回 朝鮮半島の地政学的構造と歴史(2)	講義	浅井
	第3回 日韓歴史問題の認識と相違(1)	講義	浅井
	第4回 日韓歴史問題の認識と相違(2)	講義	浅井
	第5回 日韓歴史問題の認識と相違(3)	講義	浅井
	第6回 インドネシアの地理、歴史、言語、宗教	講義	富岡
	第7回 インドネシアの冠婚葬祭と死生観	講義	富岡
	第8回 インドネシアの衣食住	講義	富岡
	第9回 インドネシアの政治と文化	講義	富岡
	第10回 インドネシアと日本	講義	富岡
	第11回 中華文化圏の特性(歴史、地理、気候、言語、民族、漢字など)	講義	水野

	第12回 中華文化圏の暦法と歳時記（元旦、清明節、端午節、重陽節など）	講義	水野
	第13回 中華文化圏の飲食と養生（四季の食養生、中国六大茶など）	講義	水野
	第14回 中華文化圏の思想（諸子百家の孔子、孟子、老子、荘子など）	講義	水野
	第15回 中華文化圏の芸術（書画、絵画、民居、庭園など）	講義	水野
評価方法	<p>(浅井) 出席、及び試験（最終講義（5回目）の後半で到達度確認のための試験）による総合評価</p> <p>(富岡) 平常評価（2割）、期末試験（8割）により評価する。</p> <p>(水野) 授業態度（出席等）、小レポート（リアクションペーパー等）、期末試験により総合的に評価する。</p>		
テキスト	<p>(浅井) 特になし、また必要な資料は講義時に配布する。</p> <p>(富岡) 特に使用しない。必要に応じてレジュメを配布する。</p> <p>(水野) 特に使用しない。最初にレジュメを配布する。</p>		
参考図書	<p>(浅井) 授業中に紹介する。</p> <p>(富岡) 小池誠 『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化（新アジア生活文化読本）』、三修社、1998年 村井吉敬 他（著、編集）『現代インドネシアを知るための60章』、明石書店、2013年 阿良田麻里子『世界の食文化6 インドネシア』、農山漁村文化協会、2008年 池端 雪浦（監修）『東南アジアを知る事典』、平凡社、2008年 日経ビジネス&TNC編『シゴトタビ 日経ビジネス インドネシア』、日経BP社、2014年</p> <p>(水野) 水野杏紀『易、風水、暦、養生、処世 東アジアの宇宙観』（講談社選書メチエ、講談社、2016年） 宮崎市定『中国史』上下（岩波文庫、岩波書店、2015年） 白川静『漢字の世界：中国文化の原点』（平凡社ライブラリー、平凡社、2003年） 藪内清『中国の天文暦法』増補改訂（平凡社、1990年） 奈良行博『中国の吉祥文化と道教：祝祭から知る中国民衆の心』（明石書店、2011年） 辰巳洋『実用中医薬膳学』（東洋学術出版社、2008年） 張競『中華料理の文化史』（ちくま文庫、筑摩書房、2013年） 布目潮風『中国喫茶文化史』（岩波現代文庫学術、岩波書店、2001年） 林語堂著、鋤柄治郎訳『中国：文化と思想』（講談社学術文庫、講談社、1999年） 森三樹三郎『中国思想史』上下（レグルス文庫、第三文明社、1978年） 王其鈞著、恩田重直訳『図説民居：イラストでみる中国の伝統民居』（科学出版社、2012年） 楼慶西著；高村雅彦日本語版監修『中国歴史建築案内』（TOTO出版、2008年） 宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波新書、岩波書店、2014年）</p>		
学生へのメッセージ等	<p>(浅井) 授業中、私語等で注意を受けた場合、評価対象から外れる場合があるので注意されたい。</p> <p>(富岡) 現在はインドネシアに駐在する日本人の数も、日本で働くインドネシア人の数も増え、相互理解の必要性はますます高まっています。皆さんの職業人生において、異なる文化背景の人々とどのように接してゆくべきか、この講義を契機として考えてみてください。</p> <p>(水野) 古代四大文明に数えられる中国文明ですが、中国はこの数十年の間急速な経済的発展を遂げており、そのパワーは世界経済全体に影響を与えています。日本は中国と古くよりさまざまな交流があり、思想や文化、技術、芸術など多くのものが伝播し、これらはまた日本で独自の発展を遂げました。たとえば現在我々が日常的に用いている漢字や、端午の節句の年中行事などもそれにあたります。中華文化圏とは中国、香港、台湾などの文化エリアを示します。本講義では歴史的に深いつながりを持ち、文化的共通性のある近隣、中華文化圏の思想、文化などを多角的に学び、理解します。これにより、将来それぞれの立場において、中華文化圏の人々とさまざまな交流をはかり、グローバルに活躍できる人材になることを目指します。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
勝井 伸子, 照井 日出喜, 折井 穂積			
添付ファイル			

目的	<p>(勝井) 21世紀の現在の世界に大きな影響力を及ぼしているアメリカの文化的背景について考える機会を持ち、その文化的背景がグローバル化とともに世界に浸透しているということを改めて認識することで、世界の中で生きる視点を持つことを目的とする。</p> <p>(照井) ドイツ文化の歴史と現状を理解するためには、とりわけドイツ語圏における劇場という存在の特殊性を理解することが必要である。劇場は、もとより演劇と歌劇および演奏会が中心となる舞台芸術の場であり、したがって、講義では、ドイツの音楽の歴史や演劇について触れながら、ドイツの文化の特質について考えることにしたい。</p> <p>(折井) 世界遺産や文化財に指定されている建造物をたどりながら、それらの背景となった歴史や文化を考察する。扱われる建造物は、ガロ・ロマン時代の遺跡から始まり、ロマネスクやゴシックの聖堂、英仏百年戦争時代の古城、絶対王政期の宮殿、産業革命期の工場や社宅、戦前の駅舎、大戦時の軍事施設、ペレヤル・コルビュジエの作品など。また、授業の残り時間を利用して最近の流行歌を紹介し、それらを通してフランス語圏の現在を考える。扱われる内容は、パリとジャズ・マヌーシュ、ラップと性差別および家庭内暴力の問題、カナダのフランス語圏、アフリカにルーツを持つ歌手、喫煙や認知症を主題とする歌など。</p>		
目標	<p>(勝井) アメリカ文化を構成する要素のいくつかを取り上げて、その歴史的・文化的背景と、それがどのように表れているかについて知識を得ることを目標とする。</p> <p>(照井) ドイツの文化的風土の特質を、芸術文化の領域において理解する。</p> <p>(折井) 授業で扱われる建造物について、それらの背景を自分の言葉で説明できること。それぞれの時代の思想の特徴や、その変遷について、自分なりの意見を述べられること。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 異文化理解としてのアメリカ文化とヒーロー	講義	勝井
	第2回 アメリカ文化の特質としてのフロンティア	講義	勝井
	第3回 イデオロギーとしてのアメリカの農民	講義	勝井
	第4回 アメリカの主流文化と移民	講義	勝井
	第5回 フロンティアの経験と暴力	講義	勝井
	第6回 ドイツ音楽史（1）ロマン派の音楽 ゲーテやフランス革命をめぐる歴史的状況と作曲家たち	講義	照井
	第7回 ドイツ音楽史（2）古典派の音楽 モーツァルトとベートーヴェン	講義	照井
	第8回 ドイツ音楽史（3）後期ロマン派の音楽 「世紀末ヴィーン」の文学・音楽・美術	講義	照井
	第9回 ドイツ音楽史（4）歌劇の歴史 モーツァルトとヴァーグナー	講義	照井
	第10回	講義	照井

	ドイツ音楽史（5）バロック時代の音楽 J.S. バッハ		
	第11回 古代と中世	講義	折井
	第12回 中世末期とルネサンス	講義	折井
	第13回 ブルボン王朝時代	講義	折井
	第14回 19世紀	講義	折井
	第15回 20世紀	講義	折井
評価方法	<p>(勝井) 授業中ミニレポート・貢献度（50%）、および期末レポート（50%）で評価する。</p> <p>(照井) 各回の講義毎に、講義の内容に関する「感想カード」（小レポート）を提出していただき、書かれた内容を評価する（したがって、単なる「出席カード」ではない）。全5枚の「感想カード」が60点以上の場合に合格とする。</p> <p>(折井) 毎回の授業において、興味深く感じたこと、疑問に思ったこと、さらに調べてみたいことなどを書いて提出することが求められる。提出しない場合、欠席扱いになるので注意すること。この小レポートで成績評価するが、内容次第では追加レポートが課される場合もある。</p>		
テキスト	<p>(勝井) 指定しない。</p> <p>(照井) 必要な場合には、講義のなかで配布する。</p> <p>(折井) なし</p>		
参考図書	授業で指示する。		
学生へのメッセージ等	<p>(勝井) 今まで特に意識していなかったことを前景化する＝意識化することで、世界の見え方が変わる！という経験を一緒に味わえればと思います。授業中の質問やコメントは貢献度として評価しますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。</p> <p>(照井) 「ドイツ文化」というよりは、「ドイツ芸術」についての講義となります。したがって、領域は無限に広いのですが、限られた時間のなかでは、それほど多くの作品を取り上げることはできません。音楽史では、バロックから現代までを対象としたいところなのですが、時間的制約から、時代順に作品を聴くのではなく、講義の重点に沿って、ドイツおよびドイツ語圏の作曲家たちの音楽を聴く、ということになると思います。日本では、歌劇については、そもそも公演自体がほとんどありませんが、せめてはDVDで、歌劇の舞台に接していただければと思います。 ドイツ語圏の劇場体制の現状について考えることは、日本のレヴェルとの比較を考えるということでもあります。数百年のスパンにおける芸術の創造と受容の展開が、じつは、この講義の主要テーマでもあります。講義に登場するドイツ語圏の芸術作品に触れて、文化・芸術への関心を高め、さらにご自分で、さまざまな文学作品を読んだり、演劇を観たり、音楽を聴いたりしていただければと思っています。</p> <p>(折井) 時間的な制約のため、ここではテーマを一つに絞って時代順に見ていく形をとります。したがって、授業で扱われるのは文化史のひとつの断面に過ぎません。そこに留意し、これから自分で文化を考える際の参考にしてください。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	1年	1	選択
担当教員			
裏山 悟司			
添付ファイル			

目的	生命の捉え方・生命活動の様式について、将来の専門教育課程で学ぶための基礎知識を習得することを目的とする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞、タンパク質、DNAといった生物学の基本的な用語の意味を説明できる。 2. 生物学の基本的な用語を用いて、生物の構造や生命現象について説明できる。 3. 現代の生命科学技術の概要と、求められる倫理観について説明できる。 		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	講義	裏山
	<ul style="list-style-type: none"> ・生物が細胞からできていることを理解する。 ・細胞がどのような物質でつくられているかについて理解する。 ・遺伝情報がDNAに存在していることを理解する。 ・DNAの複製について理解する。 		
	第2回	講義	裏山
	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報の発現の仕組みについて理解する。 		
	第3回	講義	裏山
	<ul style="list-style-type: none"> ・生体内での代謝活動を営む酵素の働きや性質を理解する。 ・生体エネルギーの産生を行う代謝系について理解する。 		
	第4回	講義	裏山
	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞分裂について理解する。 ・生物が“細胞社会”からできていること理解する。 		
第5回	講義	裏山	
<ul style="list-style-type: none"> ・生殖の仕組みを理解する。 ・受精から体ができるまで、および個体の老化について理解する。 			
第6回	講義	裏山	
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞間情報伝達システム、生体防御機構や生体維持機構といった、多細胞生物の自己維持機構について理解する。 			
第7回	講義	裏山	
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝の生物学的な機構を理解する。 ・ヒトの遺伝子疾患についての基礎的知識を習得する。 			
第8回	講義	裏山	
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子操作や再生医療といった生命科学技術の概要と、求められる倫理観について理解する。 			
評価方法	・出席・授業態度・小テスト・筆記テスト・レポート		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい基礎生物学（第2版） / 南雲保 編 / 羊土社 ※読みやすいテキストです。毎回の授業前に簡単に目を通しておいて下さい。 		
参考図書	特にありませんが、高校の生物基礎/生物の教科書を持っていれば、参考になります。		
学生へのメッセージ等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生物を取っていない学生でも理解できるように、基礎的な部分に重点をおいた講義にしますが、やはり予習復習は大事です。簡単で良いのでお願いします。 ・本講義の選択を検討している学生は、第1回目から受講して下さい。 ・遅くとも選択確定時迄に、上述のテキスト(やさしい基礎生物学の第2版)を準備しておいてください。選択確定後は教科書を持っていることを前提として講義を行います。 ・各授業回での計画はあくまで目安です。各授業終了時に翌週の内容を布告します。 		

講義科目名称： 化学

授業コード： K080230

英文科目名称： Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	1年	1	選択
担当教員			
山本 恵三			
添付ファイル			

目的	化学は看護学を修める学生にとっても基本的で重要な科目である。学生が日常生活や健康・看護・医療に関係した知識、および、最近の看護・医療の急激な発展に関する知識を理解できるようにするために、化学的視点を養うことを目的とする。		
目標	看護、医療に限らず、日常生活における事項も化学の視点で視ると、より深い理解が得られる。そのための基礎として、原子、分子の構造、溶液の性質を学ぶとともに、生体を構成する成分としての有機化合物、糖、タンパク質について理解することを目標とする。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 化学をなぜ勉強するのか？ 原子の構造と放射能	講義	山本
	第2回 原子の電子構造 周期表と元素	講義	山本
	第3回 化学結合と分子 物質の量 酸・塩基	講義	山本
	第4回 有機化合物の構造	講義	山本
	第5回 異性体と立体化学	講義	山本
	第6回 有機化学反応	講義	山本
	第7回 糖質の化学	講義	山本
	第8回 タンパク質の化学	講義	山本
評価方法	筆記テスト・小テスト・出席点		
テキスト	コ・メディカル化学（裳華房） .適宜プリントを配布します。		
参考図書			
学生へのメッセージ等	化学は難しいものではありません。化学的視点で身の回りを見ると、今までと違ったものが見えてくると思います。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

目的	生命活動の基礎的機序ならびに運動時の生理学的な生体変化についての知識を身につけるとともに、将来、医療現場及び地域での活躍が期待される者として、運動が健康の保持・増進や疾病予防に果たす役割を認識する。		
目標	1) 運動の健康に対して果たす役割について理解する。 2) 運動の身体諸機能（骨格器系、呼吸・循環器系、消化器系、神経・内分泌系）に及ぼす影響について理解する。 3) 各個人の体力水準に応じた運動量を理解し、実際に処方する。 4) 運動によって起こりうる様々な障害を理解する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 I. 健康と体力 1) 健康とは 2) 健康づくりと運動 3) 体力測定の目的と方法 4) 体力診断	講義	石指
	第2回 II. 運動に関わるからだの解剖学的・生理学的しくみ 1) 運動と骨格筋 2) 運動と神経・内分泌 3) 運動と呼吸・循環	講義	石指
	第3回 II. 運動に関わるからだの解剖学的・生理学的しくみ 4) 運動と栄養 5) 運動と代謝 6) 運動と水分摂取	講義	石指
	第4回 III. 年齢に適した運動 1) 発育と運動 2) 老化と運動	講義	石指
	第5回 IV. 生活習慣病とその予防 1) 肥満と運動 2) 糖尿病と運動	講義	石指
	第6回 IV. 生活習慣病とその予防 3) 高血圧と運動 4) 高脂血症と運動	講義	石指
	第7回 V. 運動処方 1) 運動のもつ危険性と有効性 2) 運動負荷試験の意義と実際 3) 運動プログラムの組み方	講義	石指
	第8回 VI. 運動障害と予防	講義	石指
評価方法	筆記試験、適時のレポートおよび出席状況による総合評価		
テキスト	参考資料を配布する		
参考図書	授業中に紹介する		
学生へのメッセージ等	講義と実技を別々に捉えるのではなく、生涯にわたる健康保持の基本姿勢を身に付けてほしい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			
目的	生涯にわたって断続的・計画的にスポーツを楽しむ続けることができるように、日常的なスポーツ実施による行動体力および防衛体力への将来的影響を予測することによって、いつまでもスポーツを楽しみながら実施できる姿勢を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 体力の実態をつかむ必要性を理解し、各々の体力要素の測定方法を習得するとともに評価方法を理解する。 2) 運動習慣が各体力要素に及ぼす影響について理解する。 3) 各スポーツ種目における運動形態・様式から各体力要素に及ぼす影響を理解する。 4) 既成のスポーツに固執することなく、能力差に応じて、ルール等を改変したり、新しいスポーツを創造したりする必要もあることを理解する。 5) 各種スポーツのルールを守り、仲間と共同してプレーするとともに、「楽しさを引き出す方法」「強める方法」を理解する。 		
授業計画	<p>第1回～第2回共通、授業形態…実技、担当者…石指</p> <p>体力テスト・運動能力テスト バレーボール バスケットボール テニス バドミントン 卓球 などの種目を適時実施する。また、 テーピング等の応急処置 運動負荷検査法 の実習を実施する。</p>		
評価方法	出欠の状況および授業への参加姿勢（平常の学習態度、積極性の重視）によって評価する。		
テキスト	参考資料を配布する。		
参考図書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	各自が運動に適した服装、シューズを用意すること。 生涯にわたってスポーツを継続する姿勢を身に付けてほしい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
西 真弓, 秦野 修, 東 超, 堀井 謹子			
添付ファイル			

目的	人体の正常な構造を学ぶ。		
目標	1) 人体の構造を機能と関連して理解する。 2) 人体の構造を発生学的な面から理解する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2020年4月8日 (水) 人体構造学総論	講義	秦野
	第2回 2020年4月15日 (水) 組織学総論	講義	秦野
	第3回 2020年4月22日 (水) 骨格系・筋系 1	講義	秦野
	第4回 2020年4月29日 (水) 骨格系・筋系 2	講義	秦野
	第5回 2020年5月13日 (水) 骨格系・筋系 3	講義	秦野
	第6回 2020年5月20日 (水) 心脈管系	講義	秦野
	第7回 2020年5月27日 (水) 呼吸器系	講義	秦野
	第8回 2020年6月3日 (水) 消化器系	講義	東
	第9回 2020年6月10日 (水) 消化器系	講義	東
	第10回 2020年6月17日 (水) 泌尿・生殖器系・内分泌系	講義	堀井
	第11回 2020年6月24日 (水) 泌尿・生殖器系・内分泌系	講義	堀井
	第12回 2020年7月1日 (水) 神経系	講義	堀井
	第13回 2020年7月8日 (水) 神経系	講義	堀井
	第14回 2020年7月15日 (水) 感覚器	講義	西
	第15回 2020年5月18日 (月) 解剖見学実習 (時期未定)	実習	西・秦野・堀井・東
評価方法	定期試験		
テキスト	入門人体解剖学：藤田恒夫著（南江堂）		
参考図書	系統看護学講座 解剖生理学－人体の構造と機能〔1〕（医学書院）、ラングマン人体発生学（医学書院）		
学生へのメッセージ等	解剖見学実習を行う。白衣等着用のこと。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	必修
担当教員			
齋藤 康彦, 堀江 恭二, 坂野 公彦, 柏木 克信, 吉田 純子			
添付ファイル			

目的	人体の生理機能について学習し、人体の内部環境の恒常性（ホメオスタシス）の維持機構、及び、神経系による感覚と運動の統御機構を理解する。		
目標	1) 細胞の機能を説明することができる。 2) 血液のはたらきを説明することができる。 3) 循環、呼吸、消化吸収、体液調節のしくみを説明することができる。 4) 内分泌系のしくみとはたらきを説明することができる。 5) 自律神経系のはたらきを説明することができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2020年4月14日（火） 細胞・ホメオスタシス	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第2回 2020年4月21日（火） 消化1	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第3回 2020年4月28日（火） 消化2	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第4回 2020年5月12日（火） 呼吸	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第5回 2020年5月19日（火） 血液1	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第6回 2020年5月26日（火） 血液2	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第7回 2020年6月2日（火） 循環1	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第8回 2020年6月9日（火） 循環2	講義	堀江・坂野・柏木・吉田
	第9回 2020年6月10日（水） 腎臓	講義	齋藤
	第10回 2020年6月16日（火） 体液調節と自律神経	講義	齋藤
	第11回 2020年6月23日（火） 内分泌系1	講義	齋藤
	第12回 2020年6月30日（火） 内分泌系2	講義	齋藤
	第13回 2020年7月7日（火） 神経伝達機構	講義	齋藤
	第14回 2020年7月13日（月） 感覚器と感覚系	講義	齋藤
	第15回 2020年7月21日（火） 骨格筋と運動系	講義	齋藤
評価方法	筆記テスト		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院		

参考図書	特になし
学生へのメッセージ等	生理学は人体のしくみを、分子、細胞、及び、システムのレベルから理解することを目指します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
高澤 伸. 山内 晶世. 牧野 舞			
添付ファイル			

目的	生体の恒常性の維持に必要とされる生体基本物質の構造と機能並びにそれらの代謝に関する知識を習得し、将来の看護の実践のための糧とする。		
目標	1) アミノ酸、タンパク質の一般構造と機能ならびにそれらの代謝の概略を説明できる。 2) 酵素の反応機構ならびにその活性の調節機構の概略を説明できる。 3) 糖質や脂質の一般構造と機能ならびにそれらの代謝の概略を説明できる。 4) 核酸の構造と機能ならびにその代謝の概略を説明できる。 5) 生体基本物質の代謝系の相互関連性について理解できる。 6) 生体の恒常性維持に必要なエネルギーの獲得ならびにその利用について説明できる。 7) 細胞内外の情報伝達物質が生体の恒常性維持にどう関わるのかを理解できる。 8) 上記の各種生体基本物質の質的あるいは量的異常が、病因となることを理解できる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2020年9月30日 (水) 生化学を学ぶための基礎知識	講義	高澤 山内 牧野
	第2回 2020年10月7日 (水) 代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	高澤 山内 牧野
	第3回 2020年10月14日 (水) 糖質の構造と機能	講義	高澤 山内 牧野
	第4回 2020年10月21日 (水) 糖質代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第5回 2020年10月28日 (水) 脂質の構造と機能	講義	高澤 山内 牧野
	第6回 2020年11月4日 (水) 脂質代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第7回 2020年11月11日 (水) タンパク質の構造と機能	講義	高澤 山内 牧野
	第8回 2020年11月18日 (水) タンパク質代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第9回 2020年11月25日 (水) ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	高澤 山内 牧野
	第10回 2020年12月2日 (水) 遺伝子と核酸	講義	高澤 山内 牧野
	第11回 2020年12月9日 (水) 遺伝子の複製・修復・組換え	講義	高澤 山内 牧野
	第12回 2020年12月16日 (水) 転写	講義	高澤 山内 牧野
	第13回 2021年1月6日 (水) 翻訳と翻訳後修飾	講義	高澤 山内 牧野
	第14回 2021年1月13日 (水) シグナル伝達	講義	高澤 山内 牧野
第15回 2021年1月20日 (水) がん	講義	高澤 山内 牧野	

評価方法	筆記テスト
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 2 人体の構造と機能[2] 生化学（医学書院）並びに配布するプリントを使用
参考図書	リップンコットイラストレイテッド生化学（丸善）、カラー生化学（西村書店）、シンプル生化学（南江堂）
学生へのメッセージ等	講義で知りうる詳細な内容全体を暗記するのではなく、基本的項目や重要項目について十分理解できるように努めて欲しい。 他科目の講義や本等で知り得た病気についても、生化学的観点から考察する習慣を身につけて欲しい。

講義科目名称： 栄養学

授業コード： K080300

英文科目名称： Nutrition Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
小島 ゆかり			
添付ファイル			

目的	食は健康の保持・増進に関わる重要な要素の一つである。栄養素の摂取状況は生活習慣病などの疾病の予防・改善に大きく関わっている。そこで本講義では栄養素の消化・吸収過程やそのはたらきといった基礎的なことを学んだ上で、疾病との関わりなどについて学習することを目的とする。		
目標	食品中の栄養素の体内での吸収や代謝の過程を学ぶとともに、そのはたらきを学習する。さらに種々の疾病に対する食事療法等について学習する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回	講義	小島
	序論		
	第2回	講義	小島
	栄養状態の評価・判定		
	第3回	講義	小島
	栄養素の種類とはたらき(1)		
	第4回	講義	小島
	栄養素の種類とはたらき(2)		
	第5回	講義	小島
	栄養素の種類とはたらき(3)		
	第6回	講義	小島
	エネルギー代謝		
	第7回	講義	小島
	栄養素の消化・吸収		
	第8回	講義	小島
栄養素の体内代謝			
第9回	講義	小島	
日本人の食事摂取基準			
第10回	講義	小島	
栄養ケア・マネジメント			
第11回	講義	小島	
ライフステージと栄養(1)			
第12回	講義	小島	
ライフステージと栄養(2)			
第13回	講義	小島	
食事療法(1)			
第14回	講義	小島	
食事療法(2)			
第15回	講義	小島	
まとめ			
評価方法	定期試験80%、受講態度・授業内課題20%		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎3 人体の構造と機能(3) 栄養学 医学書院 新食品成分表編集委員会 「新食品成分表」 一橋出版		
参考図書			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
大林 千穂			
添付ファイル			

目的	疾病の基本概念を理解するために、病態の成り立ちを器官、組織の変化を通して修得し、看護師として必要な基本的な病理学的知識を身につける。		
目標	1) 種々の病理診断業務を知り、看護に関わる意義を理解する。 2) 病因論を通して疾病の成り立ちを理解する。 3) 疾病の分類を学び、疾病に応じた看護の必要性を理解する。 4) 疾病における器官、組織の変化を理解することで、必要な看護学を学ぶ基礎とする。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2020年6月30日 (火) 総論 病理学とは	講義	大林
	第2回 2020年7月7日 (火) 先天異常・代謝障害、循環傷害	講義	大林
	第3回 2020年7月14日 (火) 炎症・免疫と膠原病・感染症	講義	大林
	第4回 2020年7月21日 (火) 腫瘍、老化・死	講義	畠山
	第5回 2020年9月15日 (火) 各論 消化管系の疾患	講義	内山
	第6回 2020年9月29日 (火) 肝・胆・膵の疾患	講義	森田
	第7回 2020年10月6日 (火) 血液・造血器系の疾患	講義	藤井
	第8回 2020年10月13日 (火) 呼吸器系の疾患	講義	大林
	第9回 2020年10月20日 (火) 循環器系の疾患	講義	畠山
	第10回 2020年10月27日 (火) 腎・泌尿器・男性生殖器系の疾患	講義	伊丹
	第11回 2020年11月17日 (火) 乳腺・内分泌系の疾患	講義	森田
	第12回 2020年11月24日 (火) 脳、神経、筋肉の疾患	講義	森田
	第13回 2020年12月1日 (火) 骨関節の疾患、耳、眼、皮膚の疾患	講義	伊丹
	第14回 2020年12月8日 (火) 婦人科系の疾患	講義	杉本
	第15回 2020年12月15日 (火) 病理検査とは	講義	西川
評価方法	筆記テスト		
テキスト	系統看護学講座、専門基礎4 病理学、医学書院		

参考図書	わかる病理学 第2版 小西登編 恒心社出版
学生へのメッセージ等	病気の成り立ちを理解することは、看護に携わる際に極めて重要な知識となるので十分に修得してほしい。

講義科目名称： 病態医学Ⅱ

授業コード： K080320

英文科目名称： Clinical Medicine Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	4	必修
担当教員			
濱田 薫			
添付ファイル			

目的	臨床的観点から系統別疾患概念を学び、「疾病のしくみ」を理解する		
目標	内科、外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、眼科、整形外科の各領域について、代表的疾患などの病態を理解し、同時に症状、臨床所見、検査、治療経過、予後などの実際的な臨床的知識を習得する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 病態医学Ⅱ総論	講義	濱田
	第2回 呼吸器1	講義	濱田
	第3回 呼吸器2	講義	濱田
	第4回 呼吸器3	講義	濱田
	第5回 循環器1	講義	濱田
	第6回 循環器2	講義	濱田
	第7回 循環器3	講義	濱田
	第8回 消化器1	講義	濱田
	第9回 消化器2	講義	濱田
	第10回 消化器3	講義	濱田
	第11回 代謝1	講義	濱田
	第12回 代謝2	講義	濱田
	第13回 内分泌1	講義	濱田
	第14回 内分泌2	講義	濱田
	第15回 腎・泌尿器1	講義	濱田
	第16回 腎・泌尿器2	講義	濱田
第17回	講義	濱田	

	脳神経 1		
第18回		講義	濱田
	脳神経 2		
第19回		講義	濱田
	脳神経3		
第20回		講義	眼科専門医
	眼科 1		
第21回		講義	眼科専門医
	眼科 2		
第22回		講義	耳鼻咽喉科専門医
	耳鼻咽喉・頭頸部外科 1		
第23回		講義	耳鼻咽喉科専門医
	耳鼻咽喉・頭頸部外科 2		
第24回		講義	整形外科専門医
	整形外科 1		
第25回		講義	整形外科専門医
	整形外科 2		
第26回		講義	整形外科専門医
	整形外科 3		
第27回		講義	整形外科専門医
	整形外科4		
第28回		特別講義	消化器総合外科庄教授
	消化器外科特別講義		
第29回		特別講義	河村准教授
	整形外科特別講義		
第30回		講義	濱田
	臨床腫瘍学		
評価方法	1) 期末試験 2) 課題レポート 3) 講義時の習熟度チェック 4) 履修態度		
テキスト	医学書院「系統看護学講座 専門分野 成人看護学」の眼科・耳鼻咽喉科・整形外科(運動器)領域		
参考図書	医学書院「系統看護学講座 専門分野 成人看護学」の上記以外の各項目 ヌーベルヒロカワ 臨床病態学 第2版 文光堂 わかりやすい内科学 第4版 南山堂 看護のための臨床病態学 改訂2版 南江堂 看護のための臨床病態学 第4版		
学生へのメッセージ等	看護学を学ぶ上で必要な医学的知識は膨大で、また高度な内容を要求されています。高いレベルを目標とし、本質を理解し正しいイメージを確立することによって基礎となる事項を習得するという取り組みを期待します。看護職という高度にプロフェッショナルな集団の一員となることを自覚し、日常にあふれる健康に関する情報からも正しい知識を得るようにしてください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後半	1年	1	必修
担当教員			
吉栖 正典			
添付ファイル			

目的	薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を習得する。 薬理作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的薬理学知識を習得する。		
目標	1) 薬物の取り扱い時、必要な法律、規則を理解する。 2) 薬物療法の意義を理解し、相互作用やコンプライアンスの重要性を理解する。 3) 服用薬の体内移行、作用機序、副作用、薬効に及ぼす影響因子を習得する。 4) 薬物中毒の予防と対処法を理解する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 2020年6月2日 (火) 薬理学概説 医薬品と法令	講義	吉栖
	第2回 2020年6月9日 (火) 薬物動態学	講義	吉栖
	第3回 2020年6月16日 (火) 薬物作用の特異性	講義	吉栖
	第4回 2020年6月23日 (火) 薬物受容体・イオンチャネル	講義	吉栖
	第5回 2020年6月30日 (火) 中毒学・副作用	講義	吉栖
	第6回 2020年7月7日 (火) 薬理相互作用 薬効への影響因子	講義	吉栖
	第7回 2020年7月14日 (火) 調剤・処方箋	講義	吉栖
	第8回 2020年7月21日 (火) 試験	筆記試験	吉栖
評価方法	講義中の学習意欲、探求心を重視する。 最終的には、テストによる理解度との総合評価。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進[2] 薬理学 医学書院		
参考図書	附属図書館に常備されている指定参考図書。必要に応じて紹介する。		
学生へのメッセージ等			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
吉栖 正典, 中平 毅一, 京谷 陽司, 趙 晶			
添付ファイル			

目的	薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を習得する。 薬理作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的薬理学知識を習得する。		
目標	1) 疾患と治療薬物を関連づける。 2) 薬物の作用機序から薬理作用を理解し、併せて副作用を理解する。 3) 疾患に対する薬物処方、取り扱い時の注意点を修得する。 4) 疾患における禁忌薬を十分に把握する。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 抗感染症薬	講義	中平
	第2回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	中平
	第3回 物質代謝に作用する薬物	講義	中平
	第4回 物質代謝に作用する薬物	講義	中平
	第5回 皮膚科用薬、眼科用薬	講義	中平
	第6回 抗がん薬	講義	京谷
	第7回 免疫治療薬、抗アレルギー薬	講義	京谷
	第8回 抗炎症薬	講義	京谷
	第9回 心臓・血管系に作用する薬物1	講義	京谷
	第10回 心臓・血管系に作用する薬物2	講義	京谷
	第11回 漢方薬、消毒薬	講義	趙
	第12回 末梢での神経活動に作用する薬物1	講義	趙
	第13回 末梢での神経活動に作用する薬物2	講義	趙
	第14回 中枢神経系に作用する薬物	講義	趙
	第15回 救急の際に使用される薬物	講義	趙
評価方法	講義中の学習意欲、探求心を重視する。 最終的には、テストによる理解度との総合評価。 小テストは学生の都合を聞いて別の日（土または冬季休業）にすることがある。		

テキスト	系統看護学講座 専門基礎 5 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕 薬理学 医学書院
参考図書	付属図書館に常備されている指定参考図書。必要に応じて紹介する。
学生へのメッセージ等	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子			
添付ファイル			

目的	看護学における基礎となる主要概念を理解し、看護の本質・機能と役割を学び、看護観を構築するための基礎的能力を養う。		
目標	1) 時代の変遷における看護の社会的な役割・機能について述べるができる。 2) 健康状態と環境の変化について述べるができ、保健・医療・福祉に携わる人々の役割機能と看護活動について理解する。 3) 看護を構成する5つの主要概念（人間・生活・健康、環境、看護）について観察する視点が理解できる。 4) 看護実践における倫理的側面、看護技術、看護の専門性について説明することができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 生活することの意味や生活過程について	講義	松田
	第2回 看護の役割・機能、その対象を捉える視点（人・健康・生活・環境）について 人の発達段階とその環境の変化や健康行動について	講義・演習	松田
	第3回 保健医療福祉システムと看護活動について	講義・演習	松田
	第4回 看護の歴史について	講義	松田
	第5回 看護の歴史について	講義	松田
	第6回 健康状態と保健行動および環境の変化について	講義	松田
	第7回 看護実践における看護技術、看護倫理について	講義	松田
	第8回 看護専門性、看護実践と看護倫理	講義	松田
評価方法	学習態度、課題レポート、出席・参加度、他		
テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学①看護学概論 メジカルフレンド社、2018		
参考図書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	日頃の生活を振り返り、健康や生活に関心をもっていきましょう。講義を通して自己の看護に対する考えを深めていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子、徳谷 純子、櫻井 優祐			
添付ファイル			

目的	看護実践における基礎的態度を養う。		
目標	1. 看護実践における患者の安全管理や権利擁護や倫理的配慮について述べることができる。 2. 看護実践における感染症への対応について述べるができる。 3. 健康者の生活を観察し、看護の視点を学ぶ。 4. 臨地実習における看護学生の基本的態度について考え、述べるができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 法的役割と医療安全の視点における看護援助について 看護実践における倫理的配慮 看護における観察の意義	講義	松田
	第2回 看護学実習における態度とマナー	講義	櫻井
	第3回 看護学実習における態度とマナー	講義	櫻井
	第4回 看護実践における感染症への対応と対処	講義 演習	徳谷、櫻井、松田
	第5回 看護実践における感染症への対応と対処	講義 演習	徳谷、櫻井、松田
	第6回 健康者の生活と看護の視点	講義 演習	松田
	第7回 健康者の生活と看護の視点	講義 演習	松田
	第8回 看護学実習における基本的態度と自己の課題	演習	松田、櫻井
評価方法	出席状況、課題レポート、学習態度を総合的に評価する。		
テキスト	KAN-TAN看護の実習マナー、医学書院 看護技術学 I で使用するテキスト		
参考図書	関連科目で用いるテキスト。その他、授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	講義や演習を通して自己を振り返り、看護実践における基本的態度を身につけましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
西村 亜希子／櫻井 優祐／松田 明子			
添付ファイル			
目的	対象者が最適な健康状態となるよう、日常生活行動における看護の基礎的知識・技術を習得する。看護者と対象者を体験することにより、介入・援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を習得する。		
目標	1. 日常生活行動に関連した基礎看護技術について、原理・原則を理解し、安全・安楽・自立の視点を踏まえて、適切に実施できる。 2. 対象の個別性に合わせた看護技術活用の必要性を理解し、状況に応じた看護技術の計画（手順）・実施ができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1～2回 ガイダンス／環境調整技術	講義	西村／櫻井／松田
	第3～4回 環境調整技術	演習	西村／櫻井／松田
	第5～6回 活動／休息の援助技術	演習	西村／櫻井／松田
	第7～9回 清潔・衣生活援助技術	演習	西村／櫻井／松田
	第10～13回 食／排泄の援助技術	演習	西村／櫻井／松田
	第14～15回 一連の看護技術の統合	演習	西村／櫻井／松田
評価方法	定期試験、演習課題、学習態度、出席状況を総合して評価する。		
テキスト	1. 香春知永：基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版、南江堂、2018 2. 三上れつ他：演習・実習に役立つ基礎看護技術、第4版、ヌーヴェルヒロカワ、2015 3. 川村治子：看護の統合と実践[2] 医療安全 第4版、医学書院、2018 4. 医療情報科学研究所編：看護がみえる vol.1、メディックメディア、2018		
参考図書	看護学概論で用いたテキスト その他、授業中に適宜提示する		
学生へのメッセージ等	事前学習に取り組み、演習に臨んでください。欠席せずに積極的に学習しましょう。学んだ看護技術を繰り返し自己練習し、自己の技を磨いていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子, 西村 亜希子, 三好 雅之, 櫻井 優祐			
添付ファイル			

目的	対象者の健康状態を査定するために必要な基本的なフィジカルイグザミネーションを習得し、系統的にフィジカルアセスメントできる知識・技術を習得する。		
目標	1. 看護基本技術に必要な身体診察技術の方法について述べることができる。 2. 基本的なフィジカルイグザミネーションを安全に正確に実施することができる。 3. 情報収集・判断・実施・評価の一連のプロセスを踏まえた看護実践ができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 フィジカルアセスメントとは/身体診察技術とその観察方法	講義	松田
	第2回 運動器系のフィジカルアセスメント	演習	松田・櫻井・西村
	第3回 神経系のフィジカルアセスメント	演習	松田・櫻井・西村
	第4回 循環器系のフィジカルアセスメント	演習	松田・櫻井・西村
	第5回 呼吸器系のフィジカルアセスメント	演習	松田・櫻井・西村
	第6回 血圧測定	演習	櫻井・西村・松田
	第7回 健康者の観察	演習	松田
	第8-9回 一連のバイタルサイン測定	演習	櫻井・西村・松田
	第10-11回 消化器/口腔器系のフィジカルアセスメント	演習	櫻井・西村・松田
	第12-13回 フィジカルアセスメントに関する知識技術習得度評価	演習	櫻井・西村・松田
	第14-15回 統合演習：状況設定	演習	西村・櫻井・松田
評価方法	出席状況、学習態度、課題・レポート、知識習得度評価等		
テキスト	フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 学研 2017 基礎看護技術 南江堂 2018 科目「看護援助の基本」のテキスト：演習・実習に役立つ基礎看護技術 NOUVELLE HIROKAWA 2017		
参考図書	関連科目で用いるテキスト		
学生へのメッセージ等	演習・講義を通して、看護実践に活用できるヘルスアセスメントの視点を学び、適切かつ安全な看護基本技術を身につけていきましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	必修
担当教員			
西村 亜希子			
添付ファイル			

目的	看護における人間の捉え方と、対象に生じうる課題を解決するための基本的思考について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義・目的・構造について説明することができる。 2. 根拠に基づいて、対象者のアセスメントができる。 3. 対象者にとって適切な看護計画を立案することができる。 4. 看護計画に基づく実施計画、評価ができる。 		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1～2回 看護過程概論1 問題解決のための思考過程	講義	西村
	第3～4回 看護過程概論2 問題解決の為の看護の視点	講義	西村
	第5～6回 情報収集とアセスメント	講義	西村
	第7～8回 問題の明確化	講義	西村
	第9回 看護目標の設定／知識確認	講義	西村
	第10～11回 看護計画の立案	講義	西村
	第12～13回 看護計画の実施	講義	西村
	第14～15回 看護計画の評価・記録／知識確認	講義	西村
評価方法	出席状況、授業への参加度（態度・演習課題・知識確認等）により総合的に評価する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・香春知永「基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版」（南江堂, 2018） ・江川隆子「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版」（ヌーヴェルヒロカワ, 2016） 		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・R・アルファロールフィーヴァ「基本から学ぶ看護過程と看護診断」（医学書院, 2012） ・正木治恵、酒井郁子「看護理論の活用 看護実践の問題解決のために」（医歯薬出版） その他、授業中に適宜提示する		
学生へのメッセージ等	講義、個人・グループワーク、課題学習を組み合わせで進めます。予習・復習と授業への積極的な参加を求めます。なお、本科目は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための先修科目です。		

講義科目名称： 基礎看護学実習 I

授業コード： K080500

英文科目名称： Fundamental Nursing Practicum I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	必修
担当教員			
松田 明子, 西村 亜希子, 櫻井 優祐.			
添付ファイル			
目的	看護の対象となる人々の生活する環境を理解し、看護実践の見学・参加をとおして対象者の日常生活の支援や看護の役割について考察する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人々の生活する環境を知り、看護の役割について述べることができる。 2. 看護を必要とする人への看護行為を観察し、看護の役割について述べるができる。 3. 専門職としての態度を学び、主体的な学習姿勢を発展させ、自己の学習課題を明確にする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設 奈良県立医科大学附属病院 2. 実習内容 病棟および外来施設見学 3. 実習方法・記録 基礎看護学実習 I 要項を参照 		
評価方法	「基礎看護学実習 I 評価表」に基づき評価する。		
テキスト	「看護学概論」「看護援助の基本」で用いたテキスト		
参考図書	今までに授業で用いたテキストや参考書		
学生へのメッセージ等	学内での学習内容と関連づけて考えながら学習しましょう。また、毎時の自身の言動や思考を振り返る知的な経験をとおして、自己の学習課題を発見し、主体的な学習態度を身につけましょう。なお、本科目は、「基礎看護学実習 II」を履修するための先修科目です。臨床現場で学習するため、健康管理には十分留意して取り組んでください。		

No	科目名	授業方法	単位	実務経験内容(職種)	担当教員名
1	病態医学Ⅰ	講義	2	医師	大林 千穂、藤井 智美、森田 剛平、伊丹 弘恵、内山 智子、西川 武
2	病態医学Ⅱ	講義	4	医師	濱田薫、庄雅之、河村健二、学内耳鼻咽喉科専門医 1名、学内整形外科専門医 1名
3	看護学概論	講義・演習	1	看護師	松田明子
4	看護援助の基本	講義・演習	1	看護師	松田明子、徳谷純子、櫻井優祐
5	看護技術学Ⅰ	講義・演習	1	看護師	西村亜希子、櫻井優祐、松田明子
6	フィジカルアセスメント	講義・演習	1	看護師	松田明子、西村亜希子、三好雅之、櫻井優祐
7	看護過程論	講義・演習	2	看護師	西村亜希子
8	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	看護師	松田明子、西村亜希子、櫻井優祐
9	病態医学Ⅲ	講義	4	医師	飯田順三、藤本隆、田中晴之、福島英賢、前川尚宜、瓜園泰之、川井廉之、内田優美子、大前隆志、長谷川真理、大西智子、荻原建一、阿部 龍一、田中利洋、伊藤高広、山崎正晴、木村麻衣、鳥本一匡、堀俊太
10	看護倫理学	講義・演習	1	看護師	松田 明子、山本美輪、安藤泰至
11	看護技術学Ⅱ	講義・演習	1	看護師	西村亜希子、櫻井優祐、松田明子
12	健康障害と看護	講義・演習	1	看護師	松田明子、西村亜希子、櫻井優祐
13	ヘルスアセスメント	講義・演習	1	看護師	西村亜希子、櫻井優祐、松田明子
14	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2	看護師	松田明子、西村亜希子、櫻井優祐
15	成人看護学概論	講義・演習	2	看護師	石澤美保子、田中登美
16	成人看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	長田艶子、佐竹陽子、森脇裕美
17	成人看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	石橋千夏、升田茂章
18	老年看護学概論	講義	2	看護師	澤見一枝、木村満夫
19	老年看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫
20	小児看護学概論	講義	2	看護師	川上あずさ
21	小児看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	小代仁美
22	母性看護学概論	講義	2	助産師	五十嵐稔子
23	母性看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理
24	精神看護学概論	講義	2	看護師	風間眞理
25	精神看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	橋本顕子、風間眞理
26	公衆衛生看護学概論	講義	2	保健師	城島哲子
27	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	講義	2	保健師	小松雅代、城島哲子、堀内央里
				医師	高橋佑佳
				その他	日高庸晴(研究者)
28	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	講義	2	保健師	坂東春美、小松雅代
29	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	講義・演習	1	保健師	坂東春美、城島哲子
30	緩和ケア論	講義・演習	1	看護師	田中登美
31	リハビリテーション看護	講義・演習	1	看護師	石澤美保子、佐竹陽子、長田艶子、森脇裕美
32	在宅看護学概論	講義・グループワーク	2	看護師	小竹久実子、栗田麻美
				医師	武田以知郎
33	保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1	その他	村上真(研究員)
34	保健医療福祉行政論Ⅱ	講義・演習	2	その他	村上真(研究員)
35	保健統計学Ⅰ	講義	1	保健師	小松雅代
36	保健統計学Ⅱ	講義・演習	1	保健師	小松雅代
37	成人看護学援助論Ⅲ	講義・演習	1	看護師	佐竹陽子、長田艶子、森脇裕美、石澤美保子
38	成人看護学援助論Ⅳ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、石橋千夏、田中登美
39	成人看護学実習Ⅰ	実習	3	看護師	佐竹陽子、長田艶子、森脇裕美、石澤美保子
40	成人看護学実習Ⅱ	実習	3	看護師	石橋千夏、升田茂章、田中登美
41	老年看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫
42	老年看護学実習	実習	4	看護師	澤見一枝、木村満夫
43	小児看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	山田晃子、小代仁美、川上あずさ
44	小児看護学実習	実習	2	看護師	山田晃子、小代仁美、川上あずさ
45	母性看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理
46	母性看護学実習	実習	2	助産師	森兼眞理、岡山真理、山名香奈美、乾つぶら、上田佳世、五十嵐稔子
47	精神看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	奥田淳、橋本顕子、風間眞理
48	精神看護学実習	実習	2	看護師	奥田淳、橋本顕子、風間眞理
49	家族看護学	講義・演習	2	看護師	西元康世
50	在宅看護学援助論	講義・演習	2	看護師	栗田麻美、小竹久実子、金子美千代、羽場香織
51	在宅看護学実習	実習	2	看護師	栗田麻美、小竹久実子、金子美千代、羽場香織
52	ヘルスプロモーションと健康教育	講義・演習	2	保健師	城島哲子、堀内沙央里
53	医療安全	講義・演習	1	看護師	松田明子、霧下由美子、徳谷純子、飛田伊都子
54	疫学	講義・演習	2	医師	佐伯 圭吾
55	公衆衛生看護学活動展開論	講義・演習	2	保健師	坂東春美、城島哲子、小松雅代、堀内沙央里
56	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	講義・演習	2	保健師	坂東春美
				医師	鶴屋和彦、中川仁、中谷敏昭、
				管理栄養士	岩橋明子、野原潤子
57	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	講義・演習	1	保健師	小松雅代
58	産業保健活動論	講義・演習	1	保健師	城島哲子、河田志帆
59	学校保健活動論	講義	1	養護教諭	古川恵美
60	公衆衛生看護管理論	講義・演習	2	保健師	城島哲子、朽木悦子
61	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	2	保健師	坂東春美、小松雅代子、堀内沙央里、城島哲子
62	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	3	保健師	坂東春美、小松雅代子、堀内沙央里、城島哲子
63	看護管理論	講義・グループワーク	1	看護師	川上あずさ、撫養真紀子
64	看護研究特論	講義・演習	1	看護師	川上あずさ、他看護学科全教員
65	看護研究	実習	2	看護師	看護学科教員
66	統合実習	実習	2	看護師	看護学科教員
67	災害看護論	講義・演習	1	看護師	西上あゆみ
68	チーム医療論	講義・演習	1	医師	飯田順三
69	国際看護論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	升田茂章
				助産師	山名香奈美、森兼眞理
70	国際看護論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、渋谷洋子
				助産師	山名香奈美
	計		112		

看護学科 教員名簿

(看護学科専任教員)

(2020年4月1日付)

領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号	領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号
人間発達学	教授	飯田 順三	505	小児看護学	教授	川上 あずさ	502
					講師	小代 仁美	408
臨床病態医学	教授	濱田 薫	404		講師	山田 晃子	406
基礎看護学	教授	松田 明子	403	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	401
	講師	西村 亜希子	501		講師	山名 香奈美	406
	助教	櫻井 優祐	512		講師	乾 つぶら	514
成人急性期看護学	教授	石澤 美保子	503		講師	森兼 眞理	407
	講師	長田 艶子	408		講師	上田 佳世	513
	講師	佐竹 陽子	501		助教	岡山 眞理	第 1 共同研究室
	助教	森脇 裕美	第 1 共同研究室	精神看護学	教授	風間 眞理	
成人慢性期看護学	教授	田中 登美	507		講師	橋本 顕子	407
	講師	石橋 千夏	514		講師	奥田 淳	508
	講師	升田 茂章	508	在宅看護学	教授	小竹 久実子	402
老年看護学	教授	澤見 一枝	504		講師	金子 美千代	510
	助教	木村 満夫	512		講師	栗田 麻美	513
					助教	羽場 香織	第 1 共同研究室
				公衆衛生看護学	教授	城島 哲子	506
					准教授	坂東 春美	509
					講師	小松 雅代	510
					助教	堀内 沙央里	第 1 共同研究室

(教養教育部門専任教員／医学科・看護学科兼任教員)

(2020年4月1日付)

氏名	授業科目名	所 属 等	教室
池邊 寧	哲学 医療に関わる倫理学Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門哲学准教授	教養2階哲学教室
フランチェスコ・ボルスツッド	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語教授	教養2階英語教室
ポール・マシソン	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語准教授	教養3階英語教室
マイケル・プロジェクト	英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語講師	教養3階英語教室
裏山 悟司	生物学	教養教育部門生物学助教	教養3階生物学教室
山本 恵三	化学	教養教育部門化学准教授	教養2階化学教室
石指 宏通	健康科学 健康運動学	教養教育部門保健体育教育教授	体育館
矢野 寿一	微生物学	医学科微生物感染症学教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 竜一	微生物学	医学科微生物感染症学准教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 章代	微生物学	医学科微生物感染症学助教	基礎4階微生物感染症学教室
西 真弓	人体構造学	医学科第一解剖学教授	基礎2階第一解剖学教室
堀井 謹子	人体構造学	医学科第一解剖学講師	基礎2階第一解剖学教室
東 超	人体構造学	医学科第一解剖学内講師	基礎2階第一解剖学教室
秦野 修	人体構造学	医学科疫学・予防医学講師	基礎4階疫学・予防医学教室
齋藤 康彦	人体機能学	医学科第一生理学教授	基礎3階第一生理学教室
堀江 恭二	人体機能学	医学科第二生理学教授	基礎3階第二生理学教室
坂野 公彦	人体機能学	医学科第二生理学講師	基礎3階第二生理学教室
柏木 克信	人体機能学	医学科第二生理学助教	基礎3階第二生理学教室
吉田 純子	人体機能学	医学科第二生理学助教	基礎3階第二生理学教室
高澤 伸	生化学	医学科生化学教授	基礎2階生化学教室
山内 晶世	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
牧野 舞	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
大林 千穂	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学教授	病理診断科医局
藤井 智美	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
森田 剛平	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
伊丹 弘恵	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
内山 智子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
西川 武	病態医学Ⅰ	病院病理部副技師長	病院病理部技局
庄 雅之	病態医学Ⅱ	医学科消化器・総合外科学教授	消化器総合外科学
河村 健二	病態医学Ⅱ	玉井進記念四肢外傷センター准教授	整形外科医局
吉栖 正典	基礎薬理学	医学科薬理学教授	基礎3階薬理学教室
中平 毅一	臨床薬理学	医学科薬理学准教授	基礎3階薬理学教室
京谷 陽司	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
趙 晶	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
藤本 隆	病態医学Ⅲ	リウマチセンター病院教授	リウマチセンター医局
田中 晴之	病態医学Ⅲ	医学科呼吸器内科学助教	呼吸器内科医局
福島 英賢	病態医学Ⅲ	医学科救急医学教授	救急科医局
前川 尚宜	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
瓜園 泰之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
川井 廉之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学助教	救急科医局
内田 優美子	病態医学Ⅲ	総合周産期母子医療センター講師	小児科医局
大前 隆志	病態医学Ⅲ	医師派遣センター特任助教	医師派遣センター
長谷川 真理	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
荻原 建一	病態医学Ⅲ	医学科小児科助教	小児科医局
大西 智子	病態医学Ⅲ	医学科小児科学診療助教	小児科医局
阿部 龍一	病態医学Ⅲ	医学科中央手術部助教	中央手術部医局
田中 利洋	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学准教授	放射線科医局
伊藤 高広	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学講師	放射線科医局
山崎 正晴	病態医学Ⅲ	医学科中央臨床検査部病院教授	中央臨床検査部技局
木村 麻衣	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学助教	産婦人科医局
鳥本 一匡	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科講師	泌尿器科医局
堀 俊太	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科助教	泌尿器科医局
佐伯 圭吾	疫学	医学科疫学・予防医学教授	基礎4階疫学・予防医学教室
今村 知明	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学教授	基礎4階公衆衛生学教室
野田 龍也	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学准教授	基礎4階公衆衛生学教室
岡本 左和子	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学講師	基礎4階公衆衛生学教室
鶴屋 和彦	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	医学科腎臓内科学教授	腎臓内科学医局
中川 仁	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	医学科循環器内科学助教	循環器内科学医局
渋谷 洋子	国際看護論Ⅱ	看護実践・キャリア支援センター講師	スキルスラボ棟3階 看護実践・キャリア支援センター

(教養教育部門非常勤講師／看護学科非常勤講師)

(2020年4月1日付)

氏名	授業科目名	所属等
近池 操	臨床心理学	奈良県病院協会看護専門学校 非常勤講師
山本 典子	臨床心理学	大阪大学 非常勤講師
宿谷 仁美	臨床心理学	関西福祉科学大学 講師
池上 徹	教育実践論	関西福祉科学大学 准教授
板橋 孝幸	教育実践論	奈良教育大学 教授
谷 直之	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
スフィアン・エルファンディ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
リマ・ガシュット	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
メリッサ・ハミルトン	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
クレア・ムレイ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
北澤 良子	英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ	
浅井 良純	アジア文化論	同志社大学 嘱託講師
富岡 三智	アジア文化論	立命館大学、京都産業大学、甲南女子大学 非常勤講師
水野 杏紀	アジア文化論	関西医療大学 非常勤講師
勝井 伸子	西洋文化論	森ノ宮医療大学 非常勤講師
折井 穂積	西洋文化論	
照井 日出喜	西洋文化論	元北見工業大学 教授
中川 晶	カウンセリング論	なかがわ中之島クリニック 院長
田中 佐和子	カウンセリング論	奈良学園大学 非常勤講師
村上 真	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ	京都国際社会福祉センター 非常勤講師
河野 秀寿命	日本国憲法	龍谷大学 非常勤講師
堀 あきこ	家族社会学	大阪電気通信大学 非常勤講師
古屋 哲	国際情勢論	立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
神奈川 芳行	公衆衛生概論	東日本旅客鉄道株式会社 東日本健康推進センター 医長
清水 多嘉子	公衆衛生概論	がん研有明病院 看護部長
浅野 弘明	情報科学	京都府立医科大学 特任教授
小島 ゆかり	栄養学	近畿大学 非常勤講師
山本 美輪	看護倫理学	香川大学 教授
安藤 泰至	看護倫理学	鳥取大学 准教授
伊藤 雪絵	看護倫理学	奈良県立医科大学附属病院 臨床研究センター
徳谷 純子	看護援助の基本 医療安全	奈良県立医科大学附属病院 感染管理室
三好 雅之	フィジカルアセスメント	鳥取大学 特命助教
橋本 綾	小児看護学援助論Ⅰ	奈良県立医科大学附属病院
石原 興子	精神看護学援助論Ⅰ チーム医療論	相愛大学 非常勤講師
日高 庸晴	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	宝塚大学 教授
高橋 佑佳	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	奈良県立医科大学附属病院
野原 潤子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	畿央大学 講師
岩橋 明子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	帝塚山大学 講師
中谷 敏昭	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	天理大学 教授
河田 志帆	産業保健活動論	京都先端科学大学 講師
古川 恵美	学校保健活動論	兵庫県立大学 教授
朽木 悦子	公衆衛生看護管理論	社会医療法人景岳会
撫養 真紀子	看護管理論	兵庫県立大学 教授
西元 康世	家族看護学	四天王寺大学 講師
武田 以知郎	在宅看護学概論	明日香村国民健康保険診療所
上田 樹里	在宅看護学援助論	有限会社夢グループ 専務取締役 所長
増野 章子	在宅看護学援助論	日本保健医療大学 講師
西上 あゆみ	災害看護論	藍野大学 教授
飛田 伊都子	医療安全	滋慶医療科学大学院大学 教授
霧下 由美子	医療安全	奈良県立医科大学附属病院 医療安全推進室
馬場 雄司	国際看護論Ⅰ	京都文教大学 教授
新垣 智子	国際看護論Ⅰ	りんくう総合医療センター
大川 純代	国際看護論Ⅰ	大阪国際がんセンター